

第Ⅴ期

—「思考力」が「**人間の価値**」を不動にする—

高次元経営(信頼の組織)への パラダイムチェンジ
— 「機械論パラダイム」から「有機体システム思考」へ —

第7講

『理念』について

令和6年12月18日

講師：楠本浩之

主催:一般社団法人 日本的経営研究会

経営人間学講座 道場清規

一、経営とは、経世済民の高い志しを、実行に移すことである。

一、経営とは、人間の究極の理想と目的を、実業の現場で実現することである。

一、経営とは、人間のもつ無限にふかい可能性に、確信の信を置き、価値の創造に努めることである。

一、経営とは、人間のもつ最も醜い力を、もつとも美しい価値に、転換させることである。

一、経営とは、いかなる絶望的な境遇にあっても、その中からつねに智慧と力と勇気を、奮い起こすことである。

本日のお話

■ はじめに

■ 第6講(10月16日)の復習と 伝え忘れた事(補講)

- ・【「振り返り文」の開放】による「相互互換」の関係性の創造。その「事実」の確認
- ・既に出逢いを得ている人との、新たな出逢いの『喜び』
- ・「情による相手本位」と「高い価値観による相手本位」の違いとは？

■ 「気付き」「振り返り」「質問・確認」の一部（掲載）

■ ほとんどの人が勘違いしている、

「幸福な人生」と「不幸な人生」を分ける「シンプルな答え」

ショーペンハウアー

■ 約束の大地 — 思いもことばも持っている

■ 「最大の幸福とは、不幸の源を知ることである」 フョードル・ドストエフスキー

理 念

■ 理念についての ChatGPT の回答

■ 理念について

- ① 経営者本人における重要性
- ② 社外における重要性
- ③ 社内における重要性
- ④ 理念で期待できる効果・メリット
- ⑤ 「ビジョン・ミッション・バリュー」との違い

■ 第9期 経営人間学講座 第2講 「経営理念・目的」と「抜本革新」 2

■ 【『理念』と『挑戦』の関係】と【『努力』に対する『認識』の違い】について

■ 何故？各人、一人ひとりが自ら成長し強くなって、

全体(環境)のために貢献しなければならないのか？

■ 幹部イノベーション研修（平成16年9月11～12日 志賀島） 質疑応答1 より 一部抜粋

■ 参考資料

■ 予告(1) 予告(2)

はじめに

令和六年度を振り返って、
皆様(受講生、事務局、スタッフ、関係者の方々、等々)のお陰をもちまして、
講師を続ける事が出来ております。
私自身、大変多くの気付きと、学びと、出逢いを頂きました。
心より感謝申し上げます。

沢山の学びの中で、改めて、竹内日祥上人様の思い、お心に触れるたび、その温かさと厳しさ、苦しみと喜び、痛みと快さ、この深さと広大さに出逢うたびに、何も分かっていない自分、厚顔無恥で生きてきた自分と直面します。

そして、その度に「出逢える筈のない出逢い」を既に受けていることを、
見えるものを越えて見えないものに抱かれ、自ずと心が満たされる。
豊かさが奥深くから湧いてくることを感じる事ができております。

来年度、令和七年、表に現れて見えるものとしては、
経済は少し停滞気味となり、一旦、古いやり方が流行ったり、
元のやり方に戻ったりすることもある一方で、
乙巳(きのとみ)という春のような若々しいエネルギーが
土の下で芽吹く準備をしている時でもあります。
乙(きのと)は、まだ弱弱しい力です。
しかし、だからこそ、未来の可能性を信じて、
しっかりと芽を大切に育てて行く1年にしたいと思っております。
なぜなら、2025年からスタートする行動で、大きな差が付いてくるからです。

令和七年度、高次元経営実践勉強会・第六期も、皆さまと共に、
そして、皆さまにとって大切な方々と一人でも多くの新たなご縁を得て、能く開き、
より高い目的に向かって歩いて行けますことを心より願い、
これからも精進して参る所存です。
本年も誠にありがとうございました。
来年も、どうぞよろしくお願い致します。

楠本 浩之

第6講(10月16日)の復習と伝え忘れた事(補講)

■「振り返り文」の開放による「相互互換」の関係性の創造。その「事実」の確認

○社長が今期より参加、気付きの開放 その前に前社長(現会長)と私(楠本)との関係。

そして、○社長が今の会社に入った偶然。(必然)

○社長のご両親と、○社長のご家族、学生時代の先輩、それらの関係性の上での振り返り、楠本のとりあげ、(唯一読んでなかった事)A氏の「13の続く偶然」…ロヴェッリの「この世は出来事でできている」…

○社長ほか、多くの受講生とAさん、Kさんとの関係は?

■既に出逢いを得ている人との、新たな出逢いの喜び

■「情による相手本位」と「高い価値観による相手本位」の違い! とは?

「気付き」

「振り返り」

「質問・確認」の一部

(掲載)

会社名：M(株)
役職：代表取締役社長
氏名：O
年齢：39 歳
性別：男性

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第Ⅴ期6講 感想文】

-感想本文(MS 明朝)-

楠本代表ならびにこのご講義を成立して下さっている皆様のお力、思い、ご縁に感謝致します。ありがとうございます。

相手の中に自己を見出していくと、すべては繋がっており、統合された存在。だと確信に近づいていく。すべてがかけがえのないものだという気持ちに繋がっております。

自己に照らせば、今の1秒1秒を生きながら、捉え方と言動の革新をしていくことと、統合の思想への確信が同時並行で起こる。という体験を今後していけるだろう。と感じています。いや、できるかどうかではなく、やる。ということになります。

なぜなら、「私たちは答える存在であり、責任がある存在」だからです。

諸行無常であり、唯識であるなら、私自身不変なものではない。関係性においてのみ成り立っている。今目の前にいる方、目の前にある仕事と、新たに出逢い、使命を果たしていくことで私は変われる。

今の自分を基準に考える必要がないのであれば、これ以上ウクウクすることはないです。

講義 筆耕

(レジュメ第Ⅴ期6講 冒頭楠本代表お言葉)

「見えないものを見る力」というのが今回のテーマ

⇒ 私は「透徹した目が欲しい」という想いを中高生の時に抱いていたのですが、このご講義までとうに忘れていたことを思い出しました。高い思想を学ぶ過程こそが透徹した目へ近づくことそのものだと思います。私の好きな言葉に「人は見たいものを見る」(海皇紀という漫画の主人公のセリフ)があります。このことを常に意識して生きるということでもあるかと存じます。わかっているようで実際にそのように生きてなかった自分を、今、学びの中で行動を通して変えていく。そのことにワクワクしております。ありがとうございます。

まず、**修士2年A氏**の感想文に心奪われました。

目に浮かぶような「感動」と「行動」の連鎖。タイミングの妙。

そして、「私たちは答える存在であり、**責任がある存在**なのです。」という言葉に辿り着き、ご自身の人生に繋げておられる。

講義 筆耕

(レジュメ第Ⅴ期6講 P54

カルロ・ロヴェッリ『時間は存在しない』引用 及び 楠本代表お言葉)

宇宙は、出来事の集まりであるである

～略～

私たちが“出来事”なのです。

～略～

誰かの、何かの為に、存在がある

⇒ (楠本代表) “**A君の感想文。責任のある存在**”

⇒ “**責任のある存在**”という言葉からA氏のように“後押ししてくれている”と受け止めを
できる人がどれだけいるのでしょうか？

一方で、この筆耕を通して考え付く結論は、私達いずれの存在も、誰かの、何かの為に、
に依拠している。ということに思えます。

A氏の受け止めに、感動しかありません。

そして、A合同会社のK氏の感想文を通して、このご講義を通して学んだことを活かし
実際に行動し、身近な人と、「新しく出会う」ということを実現されている姿に感動しまし
た。押し付けることなく「種を植える」ことをされている。

感想文での「それが出来ると思っています」という言葉をはんの1～2週間後に実現され
お母様との関係性も、がらっと変わる。

これが実際に起きている。

お二人の感想文を通して**勇気を頂けております**。ありがとうございます。

この勇気がなければ、このまま感想文を書いていけなかったかもしれないです。

部分の中に全体があるとすると、私の文がどの程度の開放であっても、どう繕っても、
やはり分かる人には私自身が見透かされてしまうのでしょう。

講義 筆耕

(レジュメ第Ⅴ期6講 P8 楠本代表お言葉 ⇒お上人様のお話引用)

昔お上人様の話で、

有吉佐和子さんが小説を書けなくなった時期があったが、なんで小説を書こうと思って始めたのか、その問題意識がない事を他の小説家の言葉で気付かされた。それで有吉さんは変わって、見るもの全てが、小説を書くことに繋がるように、引き寄せられるようになった。

⇒ 私自身の課題意識をしっかりと高い視座でもって問い続けるようにします。

なぜ、私は今ここに、この立場でいるのか？本来の役割は？人生から何を問われているのか？回答ができれば、自ずと、目指す先が見えるはず。以前の感想文で楠本代表に、会社の目的、社員の夢、AかBかといった質問をした際、「AもBも含むはず。Aの思想が高ければ」といったお言葉を頂きました。会社の経営理念・目的は明確なものの、そのままではお題目になりかねません。私自身の課題意識や高い視座や言動一致があつてこそ、「含む」といったカタチで統合し、各々の個性や能力を引き出し、同じ方向に力を束ねて、価値を世に生み出すことができるはずです。やります。

講義 筆耕

(レジュメ第Ⅴ期6講 P80 楠本代表コメント含む)

経営人間学講座で、講師である竹内日祥上人様が、
受講する我々(私)に、
経営に於いて求められていたものは、一体、何か？
それは、学習組織体

(ずっと聞いている人は当然書けるはず。「あー知っている」⇒知っていても仕方ない)

⇒ 丁度、当社の各拠点の週次の営業会議を進化させようとして取り組んでいたところでした。当社では2つのポイントが伸び代と思っていたのです。1つはベクトル合わせ。もう1つは知の共有でした。高次元経営を学ばせて頂く中で“統合“という考えが自分に植えられていて、もっと社員各々の力を統合できないのか？と想着いて、テクニカルな書籍(問いかけの手法 や ポストイット活用等)を引き寄せながら、試行錯誤しているところでした。そんな折に学習組織体という言葉、楠本税理士様のチームスの流れを拝見し、まさに当社が目指しているところだなと感じ入りました。今、試験的に各拠点で導入しており、面白い考え、行動に繋がっています。そもそも、私が何かしなくても、そもそも社員各自各々アイデアをもっていて、ちゃんと引き出せてなかっただけのような気もしてきました。拠点内での有機体化が進んだところで、拠点をまたいで更に有機体化させていくイメージが膨らんでワクワクしています。

講義 筆耕

(レジュメ第Ⅴ期6講 P13 楠本代表お言葉)

ウチの社員にも「都合のいい人間になるなよ」と言っている。

利用しようとするから、利用される

⇒ 社員や取引先、出逢う人全てにおいて、「利用しようとする」ことなき様向き合います。そのこと自体が私を決定づけていくからです。

講義 筆耕

(レジュメ第Ⅴ期6講 P13 楠本代表お言葉。 A氏、K氏の感想文に対して)

皆さんの24-25歳の時と比べてどうでしょうか？

子供とか若い社員は、私自身の可能性でもある。

育てられているか？ということ。関係性によって、自己を知る。部下や奥さんが変わらずで、自分だけが成長している、ということは有り得ないんですよ。

⇒ 例えば、「ウチの社員はおかしい」なんてことは考えても滑稽。ということになりますね。会社のあらゆる部分は、鏡をみていると思って自己を振り返り行動を革新して参ります。2024年残り僅か、種を植えると思って行動します。私自身が行動を変え、成長させ、社員・会社の成長を通して自己の成長を確かめて参ります。

では、具体的に何を変えるのか？<やること>毎朝、六法拝をし、今に感謝をし、自己の使命を自問し、未来にイメージを飛ばし、理想的な状況（理念・目的の達成）、理想的な自己を描いてから1日を過ごした上で、1日の終わりには、今日の出来たこと、改善点、そして明日どのように生きるか？、を明確にする。また、それらは、徹底的に自分自身がコントロールできる事に着目して行われること。そうすることで、およそ私の面持ち、話す内容、話し方全てが昨日までに自分と変わってくる。が、自分では気付くことは容易ではなく、周りの人の変化で気付く。ということを実践します。

講義 筆耕

(レジュメ第Ⅴ期6講 P31 楠本代表お言葉)

そして、

もし、そうなら…

さらに、ラッセルに伝えたかった事…それは…

キリスト教の中にブッダがいますよ

アインシュタインにも、共に伝えたかった

お上人が、「必ずある、と思っていたらあった」と仰っていたのが、

ライプニッツのモナド理論。モナドとは“1つの“という意味。

それを見つければ、関係性ありの関係。キリスト教はキリスト教らしくあればいい。

講義 筆耕

(レジュメ第Ⅴ期6講 P43 楠本代表お言葉)
(楠本代表からお上人への最初の質問を引き合いに)

「釈尊がつくったのが仏教なんですよ？」

それならなぜ、仏教は多くの宗派に分かれているのですか？」とお上人に聞いた。

浅い人はそこで終わるんですよ。

どこをとっても真実なんですよ。

価値観の勉強をしていると、変な宗教にひっかからなくなります。

⇒ 私は実家の背景から、文化的には日蓮宗と神道に親しみを感じるものの、中国～東南アジア～ネパールを旅してみて、多分、北伝・大乘仏教はかなりローカライズされていて、タイとかスリランカに残っている仏教がブッダの言っていたことにより近いのでは？と感じていました。分離思考で思考停止していたのです。部分の中に全体をみようとしていなかったのです。この筆耕を通して、「宗教を統合する」とのお上人の言葉のイメージが少しは見えた気がします。釈尊の考えや八百万の神々という考えに親和性の高い日本に生まれたという観点一つとってみても、私には当社の事業を通して日本の産業機器・インフラにおける開発・調達に貢献し、「日本のものづくりを支えること自体が使命」であり、それが地球の幸せに繋がるという確信がより強まりました。それこそ私にとっての「御宮仕え」なのだと。

そのように受け止めると、経営理念をより高い視座でみることができるのでは？(まだできないのですが、学んでいく先に、できるのでは？という勇気が不思議と出てきます。)顧客を選んで、事業方針に沿っている限りは、利益は付加価値なのだから、それに突き進めばよい。と思って社内に投げかけてきたのですが、産業機器・インフラの顧客がもつ課題をより大きく、社会課題として捉えてそれを解決するにはどうしたらよいか？という起点から事業を展開する。という当たり前のことにもっとゼロベースで向き合ってもよいように思いました。今のやらないといけないことに、凝り固まることなく、顧客の声を聴くこと。私の役割はそこにもあるのだと。＜やること＞具体的には、重要顧客を優先的に会うペースを加速させつつ、既存のビジネスの延長性上ではなく、本質的な悩み【課題・質問へ】の根っこを引き出す。そして各顧客の悩みの根っこと根っこの共通項を 当社のネットワークを活かして解決する勝ちパターンを模索し、スモールスタートする。その過程で自分ひとりではなく、社内の人材を有機体組織として活用する。ようにします。

講義 筆耕

(レジュメ第Ⅴ期6講 P68-69)

それで、お父さんの方が大事だと答えてくれたら子供はもう本当にうれしそうな顔をして、「お母さんは良かったねえ。お母さんは幸せなんでしょう」と言うのです。そしたらお母さんは、「もちろんよ」。子供は「ボクよりお父さんが大事だっていま言ったね」 お母さん「言ったよ。悪かったかい」 子供「いや、悪くない。それが正しいと思うよ。お父さんとお母さんの関係性が大事なんだよ。

⇒ 私は有り難いことに、(少なくとも今は) 息子に尊敬されています。先日「ママではなくて、パパについていく」といわれました。理由は明白で、奥さんが、私のことを良いように言ってくれているからです。私自身も、息子に対して「君が一番大事」とは言ってこなかったと思います。あくまでも“奥さんとの関係があつて” 息子が存在しているとの認識があったからです。でも、誰が一番大切か？ 息子に問われたとき、迷いがなかったという嘘になります。でも、これからは、「奥さんが一番大切なんだ」と自信をもって言えます。

講義 筆耕

(レジュメ第Ⅴ期6講 P88 楠本代表お言葉)

・結婚を決めた理由について尋ねられて私が語った事

(楠本代表)「縁があったと思った」「この人となら関係を築けられると思った」

⇒ 僭越ながら私も同じ理由です。私の奥さんがこの回答を気にいるかは分かりませんが。私の亡き祖父が言っていた(、と聞かされた)言葉で最も嬉しかったのは、「(私の父がした) 一番の親孝行は、〇〇ちゃん(私の母)と結婚したことだ」です。本当に有り難いことです。今の奥さんに出会えたこと、家族を成す勇気をもてたのは、先祖や両親の関係性があるからこそだと思います。当たり前ではないのだから、感謝して日々生きることも世界の平和に繋がると思います。

講義 筆耕

(レジュメ第Ⅴ期6講 P89-90)

(楠本代表が触れられなかった?? 聞き逃していましたら大変申し訳ございません。)

お上人様の言葉(高い価値観の学び)について、

私自身、お上人様が講演でお話しされていたこと、筆耕して、声のトーン、顔つき、表情、お上人様の立場で、お上人様の価値観を借りて、受け止めて、確認して、振り返って、初めて分かる内容。→ 皆さんも、既に一度、聴いているはずだけど、聴けていない、初めて聴いた。という印象ではないでしょうか？

—— 以下、PPT にてご説明いたします ——

それは、

つまり、

つまり、

そうだとしたら、それは何故か？

ここで言う「出来る」とは何か？

ところが、「現実」は

ということは、

有機体システム思考との出逢い



(経営人間学講座・高次元経営実践勉強会)



自己の振り返り(パラダイムチェンジ)＝自己革新



運命転換・現実変革



共同体の創造



新事業の形の創造

それは、

— ニルス・ボーアの言葉 —

【間違いを犯している】と思われるほどの【新しい形 (カタチ)】である筈。

⇒ 素直に受け止めていない。目の前のことに取り組めていない。今を生きていない。分かった気で、思考停止していて、故にパラダイムが変わらず。閉鎖系。とならず。開放系となり、無知の知をしり、今の自分の受け止めやモノの見方を常に疑い、物事があるがままに受容し自己を変革していく。そのような学習組織体が私達の使命。といったことなのかと思いつくままに想像しましたが。うまく考えがまとまりません。素直に学びながら、自分で思考し続けて参ります。

① 質問（問題）の要点

「顧客の悩みの根っこを引き出すには、どうすればよいか？」

② ①の質問（問題）の背景を具体的に

本感想文を書き連ねるにあたり

本感想文の P5 記載の通り、以下の想いに至りましたが、悩みを引き出せるかどうかが鍵と思います。

“<やること>具体的には、重要顧客を優先的に会うペースを加速させつつ、既存のビジネスの延長性上ではなく、本質的な悩み【課題・質問へ】の根っこを引き出す。そして各顧客の悩みの根っこと根っこの共通項 を 当社のネットワークを活かして解決する勝ちパターンを模索し、スモールスタートする。その過程で自分ひとりではなく、社内の人材を有機体組織として活用する。”

③ あなたのお考え（思想的振り返り…学んだ内容と照らし合わせた場合、今回の質問の内容をご自身がどう受け止めているのかをご記入下さい。）

当社が何者か（強み・弱み）を知って頂き、安心してもらった上で、関係性ありの関係を築きたい、同じ社会に貢献したいもの同志なんだ、とわかってもらえれば悩みの1つも引き出せる。のでは？

そこに真剣に寄り添う姿勢。いかなるネットワークを活かしてでも解決したいという姿勢があれば。なお悩みを言ってもらえるのでは？ と感じております。

以上

会社名：S 会計事務所

役職：税理士

氏名：Y

年齢：33

性別：男性

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第6期6講 感想文】

今回も、ご講義をありがとうございます。

また、感想文を記載して頂いたAさん、Kさん、本当にありがとうございました。

今回、どうしても予定を動かせず、初めてリアルタイム以外でご講義をお伺いしましたが、本当に、「自分の為の講義ではないか」という想いが浮かんでくるほどのご講義でした。

前回の第五期第五講にて、「現実を直視するということはどういうことか」「問題とはなにか」「これらから逃げないということはどういうことか」「支えるということとは」ということを言語化してみる様にご指導いただきましたが、何度も何度も感想文を書いたのですが、なぜかしっくりこず、結局消して、空いている時間はほぼ全てここに費やしたのに、それでも全く学習が進まない、理解に留まっている自分にも苛立ち、情けなくなっている状態でした。

そんな中、今回は最初から録画だったこともあり、気になったところは止めて、再度戻って確認して、結果的には、自分の中でかみしめながら聞くことができました。

その中で、現実を直視するということは、「あるがままを、あるがままに観る。見たいように見ない」と記載して頂いていましたが、感想文を書いた時、何となく、「見たくないものから目を逸らさず、事実をちゃんと受け入れること」ということなのかなという程度の捉え方でした。

今回の講義で、現実直視とは、「まずは、目の前で起こっている、目に見える現象に留まらず、奥にある背景・関係性を観ていこうとすること」から始まり、「現実に対して、自分がどの様に認識をしているのか。どの様な価値観を持っているのか」ということを、それがどんなに醜い認識、価値観であっても、認め、受け容れて、そこからクオリティの高いものにしていくこと」なのかなと思いました。

そもそも、今回の講義の中で、「自分自身がなぜここにいるのか？」ということを、全く見

ようとしていないということに気がつきました。

楠本代表の言葉の中に、

私は税理士という仕事が、本当に合ってて、好きなんだと思ったことはないわけですよ。僕が合うと思う人いますか。この中に。合わないでしょう。 でもね、感謝があるんですよ。今、僕がこうやって生きているのも、こうやって皆さんが来てくれるのも、両親が税理士であり、この職業と出会えて。だから、皆さんが信用して聞いてくれてるんですよ。 大好きというのはね、感謝から生まれるんですよ。それで十分なんですよ。

つまり、この国じゃない、この夫じゃない、この妻じゃない、本当は好きじゃない。本当はあっちが好きとか。現実の環境に対する認識によってですね、人生がまるで変わると。今、向き合っている。たった今向き合っている、現実を見ないんですよ。

という内容があったと思います。 このお話を何回か聞いた時、「私は現実を見れていないのだ」と思いました。

この勉強をしていて、この仕事が出来ていて、結婚が出来ているのは、元の元の元を辿っていくと、祖父がおり、母を含むその子ども達があり、そこに出会った父がおり、、、と、代表が仰っておられた様な関係性が、**私の中にもあったから**です。

私は、元々税理士になるつもりはなく、別の仕事についていました。

ただ、祖父のことが好きで、祖父が体調を崩した時に、祖父の事務所に他に税理士がいなかったこともあり、「祖父に恩返しをしたい」という理由もあって、税理士の勉強を始めました。つまり、**祖父が税理士だったからこそ、この職業と出会えました**。祖父は、福井の漁村から単身で大阪に出てきて、今の基盤をつくりました。そして、その基盤があるから、①私は不安になることもなく、②安心して勉強に打ち込むことができ、③税理士になることができ、結果、④大久保さんとも出会え、⑤カラーズの皆さんとも出会え、⑥この講義とも出会えている。だからこそ、⑦私は結婚したいと思う様になり、⑧実際に結婚もできて、⑨子供も来てくれた。**この現実がある**。

にもかかわらず、今、祖父に依存している。

あるいは妻には依存させていると感じ、何に対しても感謝が出来ていない自分がいる。だが、上の様な辿り方で現実を直視すると、物凄く恵まれていると感じ、感謝の念が当然に生まれる自分を見つけることもできる。

私が、「現実だ」と思っているものというのは、この様に一つの認識を変えると、こうも捉え方が変わってくる。現実が違うものとして見えてくる。

この様な関係性の連なりが、一つひとつの出来事の中にあるとするのであれば、奥にある関係性や背景をみていくことなく、その実態を掴んでいくことは難しいなと思いました。

現実を直視する為には、みえないものを観るという力が必要であり、余白の部分、見えない部分に大事なことがある。そこまで理解できた後に、今回のAさんの感想文を読むと、自分に足りていない部分が見つかったので、記載させて頂こうと思います。

まず、Aさんの感想文の中で、

今回のご講義での学びの中でも、大きな私の間違いであったのが、「相手に聞いたらわかる」と思っていたことです。

という記載がありました。私も、前回の講義の時に、ここが「全くわかっていないな」と思いつつ、実際に振り返りが出来ていませんでした。ですが私も、このAさんが仰っていたように、「共感的に話を聴こうということを、心の中に留めてきたつもり」でした。

ただ、私の聞き方は、相手の全体を聞き取っていくのではなく、言葉の一部分一部分を取り上げて、その意味を理解していく様な聞き方でした。それにも関わらず、相手の言葉を使い、話を聞いていると思っていました。

また、Aさんは、

話の途中で逐一、「今のはさっき言っていた〇〇とこういう関係で合ってる？」などと確認していったのですが、それで合っていくどころか、「なんだろう、その聴き方をされるとこっちとしては安心できない」と言われたことがありました。当時はそれがなぜか、全く分からなかったもので、どうしたら良いのか、かなり衝撃を受けたことを覚えています。（その当時は思想から離れていた時期でしたので、確認せず放っていました。）

それらの記憶が一瞬で思い返された後に、その前提には「相手が自分のことを完全に分かっ
ていて、間違いなく自分の言葉で表現できている」という暗黙の了解があることに気付かされて、衝撃を受けました。

と書かれていましたが、この三宅さんの言葉を受けて、私は、相手が言ったことに対して、言質を取っていく様なコミュニケーションをしていたことに気がつきました。私の聞き方は、続けていくと、相手の話に矛盾に見えるものが生じてくることがあり、「この人は、さっき自分でこう言ったのに、今度は話をすり替えて正当化をしようとしている」という様な意識が働いてくることさえあります。相手が自分のことを完全に分かっているというだけでなく、部分部分の矛盾が生じたときには、それは話をすり替えているのだと解釈する。Aさんの何倍も醜い自分がそこにいました。

当然、その時の相手は、「安心できない」どころか、「否定されている」と感じていたと思います。相手が言った言葉「だけ」を切り取り、その背後にある真意を汲み取るとすること

なく、その相手の中にある思いを汲み取ることなく、言葉「だけ」聞くことに一生懸命になっているから、その言葉の裏には想い、意図、願い、その人の置かれている状況があり、それらが関係してきて、その言葉になっているのに思い至らない。

相手の言葉が出てくる基となっている、想いや背景。それこそが、最も大事なものであるにも拘らず、私の聞き方では、それらは一切無視されている。それでは、相手の言いたいことは何度聞いても分からないと思いました。

現実直視は、まず、「目の前で起こっている、目に見える現象に留まらず、奥にある背景・関係性を観ていこうとすることではないか」と書きましたが、それと同時に、上記のことをAさんの感想文で教えてもらい、「現実とは、自分が認識するものだから、現実の事実に対して、私自身がどの様な認識をしているのかという価値観を、高次元のご講義・振り返りなどを通して認識し、更にクオリティを高いものにしていく必要がある。その為には、感想文などを通して、とにかく振り返りを毎回、可能な限り行っていくことだろう」と振り返ったのですが、この捉え方には問題はないでしょうか。

また、この前提で進めていくと、一つ、具体的な問題が存在します。
祖父と私の今の関係性です。

現在、祖父の事務所にて、今の私達の現実の背景にあるものは、祖父と私の関係性ではないかなと思います。祖父と私の税理士観の違い、祖父の私に対する評価・批判的姿勢。私の祖父に対しての批判的姿勢、私の祖父が大好きな気持ち、実際に動ける時間が少なくなっている祖父に対する事務所全体の依存、また、祖父も自分で取り仕切りたいという気持ち。

今はこれらが放置され、見て見ぬふりをしている状態になっています。**今の私の問題**は、この祖父との関係性をちゃんと向き合い、より関係性を好ましいものにつくり直すことができるようになるか否か、ということだと思います。その為には、祖父に安心を与える必要があります、その為には、「好かれよう」と思っていたり、部分を捉えていったりする自分の価値観だと、^{おもねり}阿りや正しさの主張が入ってしまい、上手く行かない。

ただ、今回、改めて辿っていくと、祖父に対する感謝が芽生えました。「なんだ、じいちゃんがいないと、税理士という自分は、間違いなく存在してなかったのか」と心から思いましたし、「祖父がいたから、大久保さんにも会えたし、カラーズにも出会えたし、この講座にも出会えたし、結婚できたし、子供も来てくれた」と、心から思えました。「税理士である自分の実態ってないんだな」と思えました。その意味で、連綿と連なる関係性の束が、今の自分なのだとも思いました。

となると、祖父との対話が必要です。

また、祖父と対話するときには、祖父に安心してもらいたいです。祖父が安心してくれるためには、祖父から出てくる言葉の奥にある、「何を不安に思っているのか」ということを正しく知ることなのでしょう。そして、それに対して、答えられる自分であることなのでしょう。その為には、祖父から出てくる言葉の背景を一つひとつ汲み取り、確認をしていき、それに対して、答えられる自分であることだろうと思います。私の部分を捉える話のききかた、背後の関係性を観ようとすらしなかった、自分の価値観を押さえ込んで、相手の話を聴いていく必要があると思います。

この点は、今まで自分の中では見れていなかった部分なのですが、**Kさんの振り返り**、そして、**Kさん**とお父様の関係性が、「いいな」と思えたこと、そして、**Kさんの振り返り**を通して、感想文を書かれて、それを共有してくださったHさんの感想文で、この祖父との対話の必要性を感じることができました。ここに関しても、自分の実態はありません。「ありがとうございます」という気持ちです。

ただ、この点、すぐに行動に移していいものか、不安がない訳ではありませんので、質問させて頂ければ幸いです。

前回、感想文を書こう書こうと思って、全く進みませんでした。今回は、ご講義、皆様の感想文を通して、多くのことを気づかせていただきました。嘘偽りが無いように振り返りが出来たと思います。ありがとうございました。

今回は現実直視を中心に記載していましたが、問題に関して、支えるということに関しても、もう少し掘り下げていければと思います。引き続き、学習を続けていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

④ 質問（問題）の要点

- ・現実直視に対する認識に問題がないか。
- ・実態がないという認識が誤っていないか。
- ・今の理解の程度で、祖父との対話に入って問題がないのか

⑤ ①の質問（問題）の背景を具体的に

今回の振り返りで、現実直視は、「現象の奥にある背景・関係性まで捉えていくこと」、また、「それに対する認識は、価値観なので、その価値観を捉えること、また、クオリティを上げていくこと（→その為に感想文を書くこと）」だと思いました。また、自分が税理士になった経緯を振り返ると、どう考えても祖父がいてくれたからであり、結婚した今の自分がいる

ことは、祖父のおかげだと思いました。つまり、自分自身に実態が無いと思いました。また、この様な捉え方が出来るのは、楠本代表はもちろん、今回の講義でいえば、感想文でAさん、Kさんが丁寧に感想文を書いてくださったからで、そこで気がついたことがベースとなっているので、これもまた自分の実態がない。自分は、ただただ共感しただけ。という状況であり、これも自分という実態は無いのかもな、と思う根拠になっています。

まず、1. 現実直視の捉え方は合っているのか。2. 上の様な認識だと、感謝の気持ちが湧いてくるのですが、自分に実態は無いと捉える認識に誤りがないのか。3. 今の自分たちの状況を考えると、祖父の事務所の現状の背景にあるのは、祖父と私の関係性にあると思うが、今の自分の理解の程度で、対話に入っているのか。（今の自分で、祖父に対話を持ち掛けて、問題がないのか。）相互批判にならない様に慎重に進めたいのですが、気を付けていれば大丈夫なのか。

⑥ あなたのお考え（思想的振り返り…学んだ内容と照らし合わせた場合、今回の質問の内容をご自身がどう受け止めているのかをご記入下さい。）

最も確認したいのは祖父との対話なのですが、何となく、このまま対話に入ると、上手く行く可能性は五分五分くらい、という肌感があります。何かが足りていない様な、でもその何かが分からない。。という様な、少しモヤモヤした感覚があります。

自分の実態を辿っていくと、感謝の気持ちが湧いているものの、「税務申告をきっちりやればそれでいいは違うんじゃないか」と思う部分もあり、そこは曲げる必要がないと思うのですが、それを持ったままで、対話に入っていけるのか？（部分で批判し合うことにならないか）という疑問や、ただ感謝の気持ちを伝えるだけでもいいのか？など、カチッと確定できていないところがあり、振り返りとして足りていない部分があるのか？と感じています。ただ、祖父との関係は何としても深くしたいと思っています。

会社名：A合同会社

役職：マネージャー

氏名：K

年齢：24歳

性別：男性

感想文の公開：②一部開放可

【高次元経営第5期6講 感想文】

本講も貴重な講義を有難うございました。代表の体調が心配される中、毎回補講の時間まで講義を続けていただいておりますが、当たり前の事ではないと改めて実感しました。

まず、命を削っての講義をしていただいているという事、そして事務局の方のサポートがあることで講義の内容を受け取ることだけに集中できること、それらなしにはあり得ません。

だからこそ、精一杯、素直に、真摯に受けとめ、実践し、成長する責任があると改めて感じました。

同時に、Aさんの感想文での「偶然」で「不思議」な出来事から「縁」を感じ、「責任」を見出されていましたが、代表の命を懸けた講義から私が実感した「責任」は、Aさんが感じられたように、今ここで講義が聴けているのも、沢山の偶然と思えるような縁がなければ存在し得ないものであるという事、そういう大いなるものに包まれているという安心や感謝から来る責任なのではないかと思いました。

■ 自身の感想文とラッセルのパートから感じたこと

心を重ねて読んでいただき自分も改めて涙が出てきました。

開放しても良いと思えたのも、これが不幸自慢にも自己主張にもならず受け入れてもらえるということが分かったこと、そういう土壌がこの高次元経営の勉強会にはあるということ、それは関係性の恩恵だと考えています。

「人間のもつ最も醜い力を、もっとも美しい価値に、転換させることである」という道場清規や、蘇生変毒という理念を共有している関係性です。普通ではあり得ないことだと思い感謝が深まりました。

またラッセルの話は、自分が踏み込む為のきっかけを与えてくれたような気がしています。

「思春期のラッセルは自殺願望さえあったとされている」

—— 省 略 ——

■ 「相互共存」の原理からの気づきと学び

親子より夫婦の方の絆が大事なのです。夫婦の絆が大事なことによって、親子の絆が保証されるからです。本来はそういう流れの中で親子の絆というものが次に出てくるテーマです。

—— 省 略 ——

やはり人間は、人間として自立できる為にはお父さんとお母さんがどれだけ深い愛情で結ばれているかということを知った時に、子供は自立が始まると言われているからです。

—— 省 略 ——

今ある関係を大事にしろということなのです。

思想学習に出逢っていなければ、このように関係性を認識することもこの問題を問題とすることも絶対になかったと思います。そして、今も潜在的に苦しいままだったと思います。この感謝をこれからの行動を通して繋いでいけるように今後も自己と、今ある関係と向き合い続けます。いつも大変なご指導を有難うございます。

5 ページにも及ぶ大変興味深い気づきと、
そして、そこからの行動によって、家族との関係性を越えて、
会社内での環境にも変化が起ってきているようです。
ただ、内容が非常に具体的且つ、デリケートである為、
割愛させて頂きました。

会社名：Q大学
役職：大学院修士2年
氏名：A
年齢：25歳
性別：男性

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期6講 感想文】

楠本代表、准子さん、事務局の皆様、共に学ばせて頂いている皆様、今回もこのようにご指導を頂ける機会、共に学ばせていただく機会を与えて頂き、誠にありがとうございます。

今までで最も遠くに居ながら、なぜか皆様を一番傍に感じる回になりました。

今、この地で学ばせて頂いている事。

皆様と学ばせて頂いている事。

そして、高い思想の学びにご縁を頂いた事。

これらの偶然（必然）に対して、授業中に感謝が込み上げてきました。

そして、それらを繋いでくださった方への繋がりに、やっと今までよりも感謝をすることが出来るような気がして、「ありがとうございます。」という言葉と涙が、何度も口からこぼれ出てきました。

K君の感想文を拝読して、振り返りの場を頂いていて開放することで自分が支えられている事を何か自分の中から掘り起こしてくれたような気がしています。

これが「関係ありの関係」なのかとも思いつつ、その偶然とそれを引き寄せる何かを今まで育ててくださった方々に感謝をしたい。そのような気持ちです。

そして同時に、それを実業の現場との向き合いに生かして行動を変えていくことが重要なのであると、再度教えて頂いていただきました。彼の感想文を読んで、人間的成長を続け、とてつもないスピードで人間らしくなる彼を尊敬します。私自身も自己との向き合いを続け、成長し続ける自分でありたい。そう思いました。

私自身の成長を持ってしか、それらにお応えできないことを改めて実感し、現実と向き合う勇気を頂きました。目の前の現実と向き合うことを前提において、振り返りを行いたいと思います。

○彼女との向き合いからの気付き

以前から、彼女との関係性について相談させて頂いておりましたが、今回、思想を学ばせていただくことによってまた新たな関係性の変化が、彼女との間に生まれました。そして、自分自身の思想を学ぶ姿勢に関しての気付きと彼女に（その他のもの全てにも）感謝をしようとしていなかったという気付きを頂きました。

きっかけは今回初めて、彼女に講座後すぐさま気付きを伝えてみたことです。

—— 一部割愛 ——

改めて考えると感謝しかなかったのです。彼女とのやり取りを通じて、ここまで成長させてもらった。思想を彼女に傷つけて、暗黙のうちに都合の良いように扱っていたにも関わらず、必死に分かろうとしてくれた。思想を大切にしたいという想いは絶対に変わらないし、それだけはブラさないと決めている。だけれども、願わくは一緒に学びたかった…。

ここまで来て、今回のお話にあった言葉が目に入ってきました。

楠本代表のお言葉 筆耕

大好きは感謝から生まれる。それで十分なのです。

レジュメ 54 ページ下部

Jの独り言

天職って、もともとから好きな仕事なのかなー。違うと思うなー。

縁があってその仕事と出逢い、必死でやっているうちに、色々と深くなり、苦しみ、喜び、情けなさに泣き、怒り、悲しみ、悔しさ、そして楽しみ、憧れ、尊敬し、心震わせ…自分と、自分の人生と仕事が一体となってきて、そして、共に仕事をする者たちが大好きになって、大きな輪を感じ、誰かの役に立てることへのしみじみとした感謝、この仕事が出来ているお陰だなあと、また感謝し、この仕事が好きになって、遣り甲斐を感じ、発見してしまった…そんな仕事…の気がする。

どちらも天職に関する文脈で語られた言葉でしたが、どちらもご講義の中で大変印象に残っている言葉の中にありました。と言うのも、ボランティアと言う偽善について代表から問うていただいたの気付きにあります。留学に來た意味をこちらで考えていたときに、今まではボランティアを通して「やりたいことを見つける」と言っていたけれども、実は目の前の現実から逃れて、ボランティアと言う簡単に褒められる、自分がある意味で救われるために來ているのだ、と感じていたところがありました。まさに「天職はどこかにある」「この仕事は本当はそんなに好きではないのだ」といった感じです。これは仕事だけでなく、どう

しても自分と彼女との関係性にも当てはまると感じました。

彼女の事が大好きだったのだ。ここでその気持ちに気付きました。

—— 中 略 ——

そうしたら不思議なことに、素直になると全く違うことが見えてくるのです。彼女への感謝を伝えながら、彼女の先ほどの言葉を思い出すと、自らの思想の向き合い方の問題点が次々と思い浮かびました。

—— 中 略 ——

楠本代表のお言葉 筆耕

よく一般で働いている方の中に、私も経営者として部下を何十年も見てきて、皆様の部下が「この仕事は、本当はそんなに好きではないのだ」と平気で言える人が多いですよ。「この仕事が大好きだ」と言える方もいるのですが、（そういない人が多いのは）普通だと思ふなのかもしれないです。

（ただ）このお勉強をしていたら許されないのです。問題なのです。それは大変な問題だと考えて貰わなければならないということです。何故かと言うと、「私が今、やっているこの仕事は、本当は、私は好きではない」なんてことは、全くの嘘偽りだからなのです。

これはこのお勉強していない限り、普通では「いや、そんなに好きじゃないもん」と言われたら「それでいいじゃん」と（なりそうですが）。

それは根拠があるのですよ。今日はそう言うことのもとになるお話なのです。

根拠は、こういう人は「本当に好きな仕事をでは語ってください」と言ったら、語れないはずなのです。

だから、私は「お前は太谷翔平か、井上尚弥か」と言いたい訳です。「本当に好きな、これこそ私の仕事だ」という人はもうその仕事をしているのです。我々はそんなに単純ではないのです。今ある仕事を好きになるのです。

これは、こういう人は「私は本当はこの親が好きではなかった」と言うのと同じなのです。「私はこの国・夫・妻・仕事（好きではなかった）」と同じなのです。ということ、ここで勉強をされている経営者の方は社員の方に話して頂かなければ困る訳です。そういうお話が出来ると、関係性が良くなるのです。

(中略)

本当に好きな仕事というものがないから、本当に好きな仕事を語れないということと、このような想いをしている方は「このお勉強をしているくせに」と言うことが言いたい訳です。「このお勉強をさせて頂いている社員の立場で」ということを、かなりの人数がいらっしゃるので申し上げておきます。

こういう想いを言葉にする人は、「この仕事も、あの仕事も、どの仕事も本当は好きではない」という意味なのです。そもそも、好きになろうとしていないのです。百億円毎月くれて、物凄い皆が評価してくれて、かっこいいというような感じですかね。それは不幸になりますよね。そして、我々経営者はそう言った不幸を創ってはいけないから、ここでお勉強した内容を部下の人たちに伝えないといけない訳です。

私は前回、日蓮大聖人様のご遺文をご紹介したのです。あのお話をどのように受け止めたかなのです。

改めてビデオを拝聴すると、きちんと冒頭で教えて頂いておりました。

まさしく「このお勉強をさせて頂いているくせに」でした。お恥ずかしい限りです。私はこのようなことを繰り返しません。

「楽う」「他人と本気で向き合う」ことをテーマに置いている以上、好きになっていく、感謝を深めていく自分でありたい。今年はこの種を巻きます。

お互いに似た者同士であり、今回も幼いやり取りを通してですが、多くの気付きを頂くことが出来ました。劇的にそれ以降関係性が変わったと感じているのですが、この関係から自己との向き合い、自己と環境との向き合いを変えていきます。

ただし、レジュメ 85 ページからの「情」についてが、大変気になっています。私は思想を第一に据えるということで、今回彼女との従来との関係性を断ち切る覚悟で臨みました。結果、新たな関係性が出来たと感じているのですが、感謝から来た好きが『情』に当たるのか、人間にとって、人間が人間として、最も人間らしくある為に必要なもの、それが『情』ともありますが、そのあたりの関係性がよく分かっていません。今も、その当時も、思想を第一に置くということは変わっていないのですが、これは『情』に流されてしまっているのでしょうか。ぜひイブニングニュースも拝聴させて頂きたいです。

○育ててもらっている奇跡

第 6 講で私の感想文を取り上げて頂きましたが、私自身育ててもらっているという奇跡

(偶然・縁)の有難さを感じました。

私とK君の感想文を通して、「このような若者を育てているか問うているのです」と言っていたのですが、その時、翻って「育てていただいた事は奇跡である」と内なる声が聞こえたのです。私の中では自分自身が成長しているのか分からないのですが、K君の感想文は本当に感動しましたし、この間ご相談させて頂いて以降、三宅の頼りがいのある姿が如実に表れてきて見違えるほどに感じています。そのような仲間と一緒に学ばせて頂いている事が、心の底から嬉しい。そして、Kアラメンバーに受け容れていただいた事。これらは私にとっては奇跡でしかありません。

「彼もうちのKアラメンバーなんですね。」と言っていた瞬間、涙が溢れ出てきました。代表も体調が悪い中、メンバーを新たに迎えることが真剣に向き合うからこそいかに大変なことか以前にも仰っていたものですから、その有難さを感じました。そして、同時にこのご縁がどのように繋がれてきたかを改めて思い出しました。

すると、今共に学ばせて頂いている皆様はもちろんなのですが、やはりS君がいます。振り返りをしながら、今、やっと、彼に今までよりも感謝できる気がしました。

彼が思想の勉強やNさんの下でお世話になっていた同じ事業から離れてしばらく経ちますが、改めて思うところがあります。彼に依存してしまっていたこともあるけれども、やっぱり一緒の方向性を向けていない事が寂しかったし、恨めしく思っていた。直接会った時はいかにもごく普通の友人のように振舞いながら、どこかしこりがあるのです。でも、彼がいなければ、今、ここにはいなかった。当時は受け容れられなかった彼がいなければ、このように他の人を好きになれなかった。

そう思って「ありがとう」と呟くと、遠く離れているけれども、感謝が伝わった気がしました。もうそこからは嗚咽が止まらなくなりました。三宅を通じて、Kを通じて、彼女を通じて、皆さんを通じて、そして、S君を通じて、感謝が深くなりつつある気がしています。そう思っただけで、私は幸せです。本当にありがとうございます。

未だ、Kアラメンバーの方や共同体に大きな貢献が出来ていないのですが、必ず貢献できるようになります。S君や他の皆様がそうであるように、出逢えてよかった。そう言える人物になることが、私の今の目標です。

OK君の感想文を拝読して

幾度か既に述べているのですが、K君の感想文を拝読して、その人間らしい姿、成長して

いつている姿に素直に尊敬の念を受けました。これは今回書ききれなかったので、筆耕をしながら改めて振り返りをさせて頂きたいと思います。

これほど「**見えないものを観る力**」があったらどれだけ感謝が出来るのだろう。そういった関係性を築くため踏み出すことに勇気をもらったし、これも後日振り返りを提出させて頂こうと思うのですが、夫婦の関係性を伺って私自身も家族との関係性の問題に踏み込みたいと思うようになりました。

三宅の成長にも本当に凄いと思うばかりで、今、共に学ばせて頂いている事。二人を通して感謝を深めさせてもらっている事を幸せに思います。

この輪をどんどん広げていきたい。そのような想いです。

○現在の壁と気付き

最後に現在直面している壁と気付きについて、“戦う”意識を奮い立たせる意味も込めて書き留めておこうと思います。

●英語

現在、大学の授業が始まり、英語の壁にぶち当たっています。読めない・聴けない・話せない・書けない。日常生活では問題ないという状況で、目を背けていた、というよりも今まで自分でも知っていた課題とついに直面していると言ったような形です。

考え方や価値観が問われるのはもちろんの事、武器となる道具ももちろん必要になってきます。さあ、逃げられないという状況で、時に自信を失い、情に訴えかけて媚び諂うような自分がいます。そのような自分はなりたいた自分ではありません。

今まで、結果から逃げてきた自分もいました。ただ、今回、ありたい自分であるためにそこも逃げずに戦うことが出来るか、自分を変えられるか。今年の種の植え方にかかっているということであり、大きく成長するのを楽しみに2か月駆け抜けたと思います。

●芸術・宗教

楠本代表のお言葉 筆耕

このお勉強をしていて、経営者として、あるいは人生を生きていく上で重要だと思うのは、現実をありのままに観る、本質的に観ることが出来るということなのだろう、と思う訳です。

これは言葉を変えると、現実の事実に対して、表面を見るだけではなくて、その奥にある関係性、つまり、「見えないものを観る力」というのが必要な時代がやがて間もなく来る。

今回のご講義のテーマでもあった、「見えないものを観る力」ということで思い当たることがありました。私は時間があると美術館や博物館を訪れているのですが、そこでは沢山のいわゆる名画と言うものを目にすることが出来ます。私は日本で数か月デッサンを習っている際に、目に見える事だけしか書いていないとよく指導を受けていたのですが、こちらにきて名画を観てみると本当にそうなのです。見えないところこそがそのものを本物たらしめている、それほどまでに見えない何かが浮き上がって目に見える形を作っています。(正直にまだ自分で出来る自信がありません。) 普遍性のある芸術の都にせっかく来させて頂いているのだからこそ、そういったものを新たな視点から沢山仕入れてきます。また、コンサートやオペラには既に行ったのですが、音楽に関する博物館等にはまだ行けていないので、そちらも体験してきます。

そして、宗教に関してです。毎週日曜日にミサがあるので、予定がない限り参列するようにしています。カトリック教徒でなくても参加できるため、同じような所に座って参加しているのですが、その良さや足りない点についてもさらに学んできたいと思います。週に一回、荘厳な雰囲気の中、自分たちの価値観・文化を形成するものについて触れる大きな機会があることは何か重要で、素敵なことだと感じています。友人の話によると、オーストリアでは選択授業にはなりますが、高校で宗教を学べる授業もあるとのことでした。また、別の友人と「いただきます」という文化について話をしたところ、やはり「罪と罰」がこちらの文化の基本になっているということを教えてもらったので、そういったことに関する関心があるのは興味深いと感じています。その一方、何か頑張っているような感じがしています。「私は一人でも信じる、振り返らない」といった言葉が賛美歌に出てくるのですが、なんとなく無理をしているような。

これらは感覚的な話で、まだまだ何も知らないなので、学術的な面も含めて今後学んできます。その上で、代表がラッセルに伝えたかったことで「キリスト教の中に仏教はありますよ」という言葉がありました。仏教があまりにも広いので、キリスト教を捨てて仏教には知らなくともキリスト教の中にも仏教に通じるところがあり、苦しむ必要はないということを伝えたかったのでしょうか。教義的なことも今後、学ばせて頂きたいですが、疑問に思ったので質問させて頂きました。

その他、他にも感動的な体験があったのですが、それはまた別途ご報告させていただきます。

今回の振り返りは以上になります。

繰り返しになりますが、私にとって今回は、感謝を深めるという意味で非常に大きな回になりました。

皆様と学ばせていただくことをありがたく思いながら、今後も自己と向き合っていく自分でありたいと思います。

今後とも何卒、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

会社名：株式会社B

役職：代表取締役

氏名：N

年齢：56 歳

性別：男性

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期6講 感想文】

楠本代表、准子様はじめアライアンスメンバーの皆様、いつも大変お世話になり誠にありがとうございます。

A 君や K 君の感想文を通じて、こんなに真剣に素直に自己と向き合い、関係性を大切にし、学んだことを行動し実践していることを目の当たりにし、**しびれました**。

このような若者がいること、出会っていることに感謝しかありません。

さらには、気づきもいただきました

振り返りを本来提出する「場」というのは、**自分が日々向き合っている環境に対して、つまり実業の現場**であるということに気づきました。つまり、「行動を変えること」が本来の振り返りの提出（アウトプット）で、**そこが統合されている必要がある**ということです。

私自身振り返りに対して迷っていましたが、この一文で助けられた気がします。

振り返られていないのは、行動できていないから迷いが生じている。何も変わっていない自分に気づいている自分があるからだとなりました。

以上です。

会社名：株式会社

役職：代表取締役

感想文の公開：②匿名希望

【高次元経営第5期6講 感想文】

-感想本文(MS 明朝)-

本講も楠本代表の体調が優れない中、高次元経営第5期6講を開催いただきまして、代表をはじめ、事務局の皆さま、その他サポートしていただいている皆さま、ありがとうございます。

今回は、大きく二点のことについて感想文を記載させていただきます。

① 楠本代表は税理士に感謝しているとおっしゃっていましたが、そういえば自身は税理士ということに対して感謝できているのか？という、お恥ずかしながら、全くそういったことを考えたこともありませんでした。何なら税理士という業界に対して嫌悪感を抱いていることのほうが多くあります。それは、試験合格した際の同期会でとある男性が「これからはこのハンコが税理士となるんや」という無責任な発言をされている方がおり、嫌な気持ちになったと共に「もしやこんな考えの人がたくさんいるのか？」と軽蔑するような気持ちになり、その場をそそくさと去った経験がきっかけとしてあります。その後も同じような気持ちになったことが何度かありますが、自分がこの業界を変えるんだというところまではいかず、業界を変えるのは自分には無理。せめて自分のお客様には良いサービスを提供したい。そういった思いでいたのですが、今思うと目の前の仕事だけをみて、業界の問題からは逃げていたのかもしれない。今考えるところでの感謝といえば、自分の家族が衣食住に不自由なく生活できていること。この仕事を通して様々な関係性ができ、価値観やドラマを共有できること。楽しいと感じて仕事ができていること。このようなことくらいしか思い浮かびません。これからもっと深く感謝するためにも、改めて何故この仕事をしているのか自己に問うていきたいと思います。

②親子の関係において、幼少期からずっと心に残っていることがあります。

それは、実の父親(A)を産まれてから一度も見たこともなければ話したこともないということです。いま生きているのか死んでいるのかも分かりません。母は私が保育園年長のときに再婚したのですが、それまではずっとシングルマザーでした。急に同じ男性がよく家に来るようになり、いつの間にか結婚していたという感じです。育ての親である父(B)とは私が大人になるまでは良くもなく悪くもなく、会話もそこまでしないというくらいの関係でした。Bに悪いと思いながらも、高校生の頃、勇気を出してBがいないタイミングで母に聞いたことがあります。「A ってどんな人だったの？何故別れたの？」と。すると母は「今のあ

んたに話すのはまだ早い。今話すとあんたが壊れる。」と言われました。これ以上聞いてはいけないと察し、結局それ以降気にはなりつつ聞けないままで 20 年以上経過してしまいました。

学生当時は B の実の子と私との対応の違いに、気付かないふりをしながらも嫉妬していた私があります。それもあって、実は B のことがあまり好きではありませんでした。しかし、今では私にも子どもができ、その子どもを血のつながった本当の孫のように可愛がってくれますし、私も大人になって父が苦勞して育ててくれたことに感謝の気持ちをいただくようになり、良い関係性になってきていると思います。だからこそ、B のことを思うと今さら母に A との過去を聞きづらいつい思いながらも、幼少期からのモヤモヤが残ったままです。つい先日も私の旧姓、つまり A の名字と同じ方で、もともと私が住んでいた地域が地元ということで、腹違いの兄弟かとも思い、ある程度の関係性が出来てから「失礼なことをお聞きするのですが、もしかして家庭環境が少しややこしかったりしますか？」と質問してしまったのです。対して珍しい名字でもなく、生まれた地域も結構範囲が広いので、そうである可能性なんて著しく低いのに、そんな大変失礼な質問までしてしまうのです。もちろん、その方は全く関係なく私の見当違いであり、恥ずかしいおもいをしました。

A とは会ったことなければ、見たこともない、顔も分からない。しかし、確かにずっと私の中に大きく存在しております。母が A とどのように別れていたとしても、もし生きているのなら A に会いに行くであろう自分が想像できます。今の母と B の関係性、私と母と B の関係性がどうなるか分からないのですが、私は母に A のことを聞くべきでなのでしょうか。最後質問になってしまい申し訳ございません。

次回以降も学び続けますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

ご質問・確認の内容については、 個人的にお答えさせていただきます。

会社名：C株式会社

役職：代表取締役

氏名：K

年齢：39 歳

性別：男性

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期6講感想文】

——大変重要な内容ではありますが、前半部分は割愛——

高次元経営第5期6講感想文 レジュメ 74 ページ

他人との関係が最高の状態になった時に、それを日本語では自己同一性といいます。「自己同一性っておかしな言葉だな。自己って一人で一つに決まっているから、自己を同一性なんて断らなくたっていい。」と思われた方がいるかもしれません。

自己には他人が同居しています。しかも数えられないぐらいの他人です。それが1つの自己の中に納まっているということは、この実体は、普通常識では考えられない大変なエネルギーであり、その膨大なエネルギー量がこの中に約束されているということなのです。

それを自己同一性、アイデンティティといいます。

アイデンティティとは、自己は一つである。

他者がこんなにたくさん含まれているのに、一つの人格として完璧な調和の関係性で成立している。

だから自己人格は物凄く立派で間違ったことはしません。人には非常に優しく、自己に優しいのです。自己の中に含まれる無数の他人の一人ひとりに優しい。

それが自己人格という人格です。

そういう人格を持っている自分であることを確信できた時、この人は素晴らしい価値観の持ち主だということになるというお話です。

我々は、他人から素晴らしいと羨ましがられるような人格を自分のものにするために、自己と向き合い続けなければいけないのです、

私は、本講において、ここの内容が最も衝撃を受けました。

5歳の頃の原体験をきっかけに私と宇宙は一つであるという感覚が自分の中に存在していた為、現実とは完全に分離している事実はずっと違和感（後の苦しみ）を感じていました。したがって、「私は一体何者なのか。」というテーマは年少期からの命題でした。

その答えが、まさかたったの一文で書かれていました。「他人との関係が最高の状態になった時、それを日本語では自己同一性といいます。」思わず、前日レジュメを読みながら、「まじっ!？」と叫んでしまいました。「真の自立とは、支えることで多くの支えを得る事。つまり、我のみによる自立など存在しない事を真に知ること、をいう」というご指導を頂いた時、確かに言われてみればこれまでのご指導内容からはそれが導き出される・・・と思ったときの情けなさや喜びが同時に沸き起こった感覚に似ていました。

現実との関係性において自己を振り返ることしか、アイデンティティは確立しない。
裏返せば、振り返りそのものが、アイデンティティの確立となる。

母との対話における准子さんのご指導で、「巨大な優しさによって、恐ろしいほどの厳しさをも、すっぱり全体で抱きしめ、包み込みこんだ、色彩豊かな、温かく、鳥の囀りさえ聞こえてきそうな、大自然そのもののような世界」という表現しか出来ませんでした。自己の中に無数の他人が同居している完璧な調和の関係性が自己の中に確立されているから、すっぱり抱きしめられたと感じたのだと受け止めました。

高次元経営第5期6講感想文 レジュメ 69 ページ

自立できる子供というのは、お父さんとお母さんがどんなに仲が良いか、深いか、ということを確認した子供だといわれているのです。

楠本ご夫妻が、この事実を現実として教えてくださっています。お父さんとお母さん（楠本ご夫妻）が、子ども（私たちメンバー）には測り知れない深い関係性であることが確かめられるから、自立しなければならない、自立したい、という想いをもって、このお勉強を真剣にさせて頂けています。

私たち受講生は、楠本ご夫妻の関係性に活かされているとも言えるのだと思います。私たち夫婦もそのような両親（経営者）でありたいです。絶対にそのような大人になります。

高次元経営第5期6講感想文 レジュメ 77 ページ

人間を誕生させる時の神様の想い、願いは人間の尊厳性の為に同じ人間はつくりません。動物でも同じ動物はつくりません。犬は犬でも毛並みが違ったり、顔の表情が違ったり、顔の目のあたりの犬の可愛い表情が全て違います。差が異なる差異性が犬の存在価値、尊厳性です。

改めて、この箇所を読み返した時に、神様の優しさに涙が溢れてしまいました。これまでの人生においては、なぜ能力がこんなに低いのか、なぜこれを有していないのか、なぜ・・・と「差異性」ということに苦しみ、嘆き、悔やみ、時には、優越感を感じ、見下してきました。

しかし、「差異性」が、万物の生き物の尊厳性の為だったのかという巨大な優しさだと受け止めた瞬間、この宇宙の原理の優しさに触れ、地球がひっくり返ったような感覚となりました。宇宙を支える原理に感謝して、自分の「差異性」を活かさなければならぬと教えて頂いたと受け止めております。

高次元経営第5期6講感想文 レジューメ 78 ページ

「今後の21世紀における企業内の課題の多くは、量ではなく質がテーマとなる。」とは、その質感をテーマにして会社の中で、「私たちのこの商品が何故売れないのだろう？どこに理由があるのか？」という議論が必要になってくる時代ということです。

これは、今すぐ取り組みたい当コミュニティのテーマだと考えています。現実の問題を巻き込み、価値創造の為に「プロジェクト21（仮題）」という名前で進めていきたと考えております。

日々、深いご指導を頂き本当に有り難うございます。実体はなく、関係性に活かされている事に感謝を持ち、常に高い所を見て、現実と向き合い、決して諦めずに、振り返り、他人（環境）との関係を最高の状態に変革していく人生を歩みたいと心から願っております。受け止めに付きまして、間違っている点、足りない点ございましたら、どうかご指導頂きたくお願い申し上げます。

ほとんどの人が勘違いしている、
「幸福な人生」と「不幸な人生」を分ける「シンプルな答え」
人生の悩みに効くショーペンハウアー

梅田 孝太



—割愛—

幸せになるための「3つの財宝」

ここからはさらに、『幸福について』の内容を詳しく見ていこう。

「第1章 根本規定」では、先述したとおり、幸福の礎となる「3つの財宝」について規定されている。要は、それらを持っているかどうかで、幸福な人生になるかどうかが決まってしまうのだというのだ。

第1に、「そのひとは何者であるか」。すなわち、人柄や個性、人間性などの内面的性質が第一の財宝とされる。そこには健康や力、美、気質、徳性、知性、そしてそれらを磨いていくことも含まれるのだという。

第2に、「そのひとは何を持っているか」。これは、金銭や土地といった財産、そのひとが外面的に所有するものだ。

第3に、「そのひとはいかなるイメージ、表象・印象を与えるか」。これは、端的に言って他者からの評価であり、名誉や地位、名声である。

わたしたちはたいてい、第2のものや第3のものを追い求めてしまう。

まさにこれらは、「～がほしい」、「～されたい」という欲望の対象で、どれほど多くを手に入れても、決して満足できないものである。

したがって、

何かを手に入れさえすれば幸福になれるという考えは、取り去るべき臆見だといえる。

もちろん、こうした第2、第3の財宝がまったく価値がないものだということではない。生きていくためにはこれらが必要であることは言うまでもないし、それらを手に入れることをよいことだとわたしたちは当然考えているし、社会生活もまたそれらの価値を中心に出来上がっている。

そうしたものを一切捨て去るべきだというのが主著の〈求道の哲学〉だとするならば、『幸福について』で力点が置かれているのは、第2、第3の財宝よりも第1の財宝のほうが価値あるものだという優先順位を「あきらかにする」ことである。

結局のところ、「～がほしい」、「～されたい」という欲望を節制し、コントロールできるような、穏やかな内面的性質を備えているひとこそが幸福な人生を送るのではないだろうか。

内面的な性質 (本質=本来の自分)は不変である

すなわち、ショーペンハウアーによれば、あるひとが幸福な人生を送るか、それとも不幸な人生を送るのかは、第1の財宝である内面的性質に最も左右されるのだという。

たしかに、人生の道行きの中で、その出発点に何を所有していようと、またどんな出来事が起き、ひとにどう思われるに至ろうとも、それをどう感じるかは、そのひとの内面的な個性による。

注) その人の内面的な個性→その人の価値観

たとえば、気高い性格や、明晰な頭脳、楽天的な気質、心根の明るさ、心身ともに健康であること、こうした諸性質をいくらかもっていて、さらに維持増進していける人は、幸福な人生を送るための基盤が備わっているのだといえる。

わかりやすいのは心身の健康だ。これがないと、どれだけ多くの財産を持っていたとしても、そもそも楽しんだり快楽を感じたりすることさえできず、幸福だとは言えないからだ。

注) そうでしょうか? そこで、次の「約束の大地」を紹介します。

わたしたちはたいてい、「～さえ手に入れば、～に認めてもらえたら、～にさえなれば幸せになれる」と考えてしまいがちだ。

だが、何が手に入ろうと、誰に認められようと、陰気な者は決して喜ぶことができず、憂鬱な気質 (*私は気質ではなく、価値観だと思います*) の者はずっと不安から逃れられない。気高い性格 (*価値観*) をした者は、世間が羨ましがするような莫大な財産や高い地位など持っていなくても、自分が自分であるだけで満ち足りていて、誇りを失うことがない。

ショーペンハウアーによれば、陽気であったり陰気であったりする気質 (*価値観*) や、明るかったり憂鬱だったりする気分の原因となっているのは、身体の奥深くに備わっている、不変の内面的な性質 (*価値観*) なのだという。

内面的な性質 (自己=価値観の位相差)は、心の中で「受容力と再生力とのバランス」を生み出すものだ (邦訳 34 頁)。わたしたちの心は、外面的な刺激をさまざまな仕方で受け止め、また通常の状態に戻るための、心の反応力とでも呼ぶべき力を備えている。

それがどの程度の強さなのかはひとによって異なっていて、明るい気質 (*価値観の個性差と位相差*) のひとは何が起きても軽やかに受け止め、次のプロセスにすぐに進もうと軽やかな反応を見せるだろう。

これに対して、憂鬱な気質 (*価値観の個性差と位相差*) のひとは、どんな出来事にも過度の感受性を示して重く受け止め、細部まで探り尽くさないうちは不安で決して次に進めないも

のである。

「内面の富」を見つめること

以上のように、あるひとがいかなる内面的性質(自己存在の確信)をもっているのかが、幸・不幸を隔てる最も重要な要素となる。これをショーペンハウアーは「内面の富」と呼んでいる。

わたしたちはたいがい、財産や他者からの評価など、外面的なものに気を取られてしまいがちだ。だが、「内面の富」を持っている者は、「まったく輸入せずにすむ国がいちばん幸福であるように」、外からやってくるものを必要とせず、自らに満足できる。すなわち、

だれでも、自分にとって最良で肝心なことは、自分自身であることにちがいないし、自分にとって最良で肝心なことは、自分自身で成しとげるものだ。自分にとって最良で肝心なことが多ければ多いほど、したがって、自分自身の内に見出す楽しみの源泉が多ければ多いほど、それだけ幸福になる（邦訳 48 頁）。

もちろん、財産の多寡や他者からの評価などの外面的な富をまったく気にせずにいられるひとなどいないだろう。わたしたちは日々これらのことを気にかけ、神経をすり減らしている。だが、ショーペンハウアーは以下のように断言する。

およそ生あるものは、自分自身のために、何よりもまず自分のために独自の生を営み生存するほうがよい。——どんな在り方でも、自分自身にとって最優先すべき最も大切なことは、「自分は何者なのか」ということであり、もしも、たいした価値などありはしないというなら、そもそも、たいしたものではないのだろう（邦訳 175 頁）。

「外」からやってくるものよりも、「内」に備わっているものこそが、幸福の源泉なのである。

財産や他者からの評価よりも、自分で自分を評価し、そうして見出した内なる本質を育て、開花させていく孤独な営みこそが、幸福につながっている。

何をどれだけ手に入れたか、他人からどう思われたか。こうした外面的なことがらよりも、自らの内にもともと宿っている「富」に目を向けることが重要なのだといえる。たとえそれがいまだ種でしかなくとも、いつか花開いて実を結び、幸福という収穫をもたらすその日まで水をやり続ける (水→自己と向き合う → 価値観学習) こと。それがショーペンハウアーの教える、幸福への第一歩なのである。

約束の大地

— 思いもことばも持っている

詩:みぞろぎ梨穂
青林堂



序 文

初めてみぞろぎ梨穂さんの詩集『らりるれろのまほう』を読んだときの感動は忘れられません。

梨穂さんは、生まれてすぐのトラブルで脳に障害を負い、からだを動かすこともしゃべることもできません。その彼女が平成 24 年 5 月にお母様がお連れした國學院大學の柴田保之先生により言葉を紡ぎ出されたのです。柴田先生は、長年、障がい者の教育について研究され、コンピューターを通じて梨穂さんのような重度の障がい者の言葉を引き出し、会話することを実践されてきました。詩集『らりるれろのまほう』は、そんな梨穂さんが生まれてこのかた考えてきたことを 22 歳になって初めて堰を切ったように語った言葉と詩集です。

初めて出てきた言葉は衝撃的でした。それは、

……ご覧の通り、何もできない私ですが、
ぼんやりと生きてきたわけではありません。

ずっと、私は人間とは何なのかということを、考えてきましたから、
別に世の中の人が何と言おうと、
私は私らしく生きてきました。……

ではじまる魂の叫びでした。そのメッセージは、

「『チャレンジド』は寝たきりであっても希望をなくしたことはないのです」。

それは、まるで幾多の試練を経験した魂が今世でさらなるチャレンジのために操縦困難な肉体を選んで生まれてきたようです。

まさに、障害を自分や社会のためにポジティブに活かしていく「チャレンジド」の体現そのものです。

このような溝呂木さん親子にいちどぜひお目にかかりたいと願っていたところ、昨年
11 月に溝呂木さん親子とお会いできました。

実際にお母様が言葉ごとに梨穂さんの反応を伺って疎通している様子は実に感動的でした。

このたび、青林堂から新たに詩集『約束の大地——思いも言葉も持っている』が刊行されることになりました。

目を曇らせず、心に毒を持たず、頭をかたくせずに読んだら梨穂さんの詩がとうてい凡人には真似のできない優れた内容の詩であることがわかると思います。

梨穂さんは超一流の詩人です。

ますます磨きのかかった梨穂さんの詩が一人でも多く方々に読まれることを心より願っています。

そして、このようなすばらしい可能性についてなるべく多くの方々に知ってほしいと思います。

特に、梨穂さんのようなお子さんをお持ちの親御さん、福祉施設で働いている方々、あるいは医療関係者の方々にはぜひ知っていただいて、表現がうまくできないようでも健常者と同じように考え疎通を図ろうとしていることを理解していただけたらと思います。

ぜひ皆様、ご堪能ください。

東京大学名誉教授 やはぎなおき 矢作直樹

「約束の大地」に寄せて

國學院大學人間開発学部初等教育学科教授

柴田保之

どんなに障害が重く重複していても人は奥行きのある深い存在であるという考えを、そのような子どもたちとじかに関わることによって明らかにしようとした故中島昭美先生のおかげで、私は言葉のないとされる人たちと迷うことなく関わり合いを始めることができました。1981年のことです。そして、実際の関わり合いを通して、私は、先生のその考え方の正しさを実感していきました。

一方、現在も医療や福祉、教育の世界には、そういう子どもたちが言葉を持つ以前の発達段階にあるとの常識があるわけですが、私も当時その常識にすっかりのみこまれていたから、言葉がないとされる出会った子どもたちが放つ輝きを前にして、言葉よりももっと大切なものがあるという考えを持つようになっていきました。

そんな関わり合いを続けていく中で、1997年に、ある少年に出会います。障害が重いと言われていてもこの子には言葉があるだろうと実感させられる子どもで、さっそく文字カードなどを使った学習に取り組むことにしました。そして、当時すでに肢体不自由者用にワープロのソフトなども開発されていたのでパソコンとスイッチで言葉を綴ることにも挑戦したのです。幸い、それまでの障害の重い子どもたちとの関わり合いでスイッチなどもたくさん作っていましたから、丁度よいスイッチもみつかりましたので、その子は1998年には文章を綴ることができるようになったのです。

しかし、私の中では、この少年は、例外的な存在で、言葉がない子どもは厳然として存在するという想いは変わりませんでした。それでも1つの方法を身につけた私は、言葉の可能性が感じられれば、この取り組みを行うようになり、思いのほかそういう子どもが少なくないことに気づかされていったのです。

そして2004年の9月のことですが、私が当時関わっている中ではもっとも障害が重いかんじられていたかなさんという女の子に、たまたまワープロのソフトを出したのです。すると「かななかあさんがすきめいわくばかり」という文が綴られました。この瞬間、私は、障害の重い子どもを「発達段階で見る」と自体に誤りがあると気づかされたのです。而も、短い言葉で綴られた文章はとてつもない深い言葉でした。

この日を境にあらゆる子どもに言語の可能性を考えて関わるようになりました。しかし、まだ方法も未熟で、かなさんの17文字の言葉も30分以上の時間をかけてよみとったものでした。

それでも試行錯誤を重ねていく中で、援助の方法も進歩し、読みとる文字数も増えていくようになったのですが、私が初めてあるお子さんから詩を読みとったのは2007年の1月のことです。ちなみにこの時の文字数は400文字あまりに増えていました。そして、様々な

子どもたちと関り合いを進めていく中で、多くの子どもたちが詩を作っていることが明らかになったのです。

ところで、私は、こうした関り合いが世間に受け入れられるのはそんなにむずかしいことではないと考えていました。子どもがゆっくりと文字を入力していた時期の映像などを見ると、子どもの手の動きや全身の動きをみれば、本人が入力しようとしていることは誰にも明らかなように思えたからです。しかし、理解者は少なかったところが、子どもたちの言葉が私の作為であるようにとらえられることが増えていってしまいました。

しかも、ゆっくり綴っていた時代でそうでしたから、スピードもあがり文字数も増え、書かれていく内容が深いものになっていくと、この子たちがそんなむずかしいことを考えているはずがないとの批判も加わってくるようになったのです。

しかし、これまで言葉がないとされてきた人々が言葉を持ち、深い思索をしているという事実を、そのままにしておくわけにはいきません。今、私たちは、パソコンの方法以外にも、介助者が手を添えて行う筆談や文字盤の指差しなどの方法も併せて、言葉を聞きとることのできる援助者を増やしながら、この事実を伝えていく努力をしています。道は険しいとはいえ、当事者とともに確実に前に向かって進んでいます。こうした詩集が出版されるということも、その大きな力の1つになるに違いありません。

ところで、**梨穂さん**にあったのは、2012年の5月のことです。そして、1000文字を超える文章の中で、**生きる意味**についての**深い思索**と一編の詩が綴られていたのです。語られた生きる意味とは次のようなものでした。

「ずっと私は人間とは何なのかということを考えて来ましたから別に世の中の人は何と言おうと私は私らしく生きてきました。自分にとって理想はよき理解者を見出してどうして私たちが生きる意味があるのかということを伝えるそのことが夢でした。」

「私にとって私の生きる意味は私たちのような存在でも生きる意味があるのだからどんな人にも生きる意味があるということです。」

「なぜ私に生きる意味があるのかというと黙ったままの人生でも人は希望を持って生きられるということを証明できたからです。」

長年にわたって沈黙の中で紡がれてきた哲学でした。

そして、その哲学とともに梨穂さんは、詩を作っていたのです。「小さい**瑠璃色**の勇気が私を包み リラの花の咲く北の国に私を誘う」という言葉から始まる作品です。

言葉がないとされてきた人たちで、同様に詩を作ってきた人たちは少なくありません。

それらの詩に共通なことは、誰かに伝えるために作られたものではないということ、いや、誰にも伝わることはないという思いの中でつくられていたということです。

それでは、みなになぜ詩を作っていたのでしょうか。

「詩を作ると気持ちが落ち着きます」という言葉は、そういう人たちが共通に語った言葉

です。

この言葉にはどのような意味がこめられているのでしょうか。

言葉は、心に 1 つの世界を創造することを可能にするわけですが、思い通りに動かない体によって現実世界に向き合わなければならない人たちにとって、言葉によって自由に世界を紡ぎ出すということの意味は、われわれとは比べものにならないくらい重要なものになるはず

です。そして、その世界を自分自身にとって、より意味深いものにしようとするのではないのでしょうか。そうして形作られた世界は、より本当のもの、より美しいものに向かうのではないのでしょうか。

しかも、その世界は、外に伝える術がなかったわけですから、ひたすら自らのためにのみ研ぎ澄まされていくことでしょう。

そして、世界が研ぎ澄まされるということは、言葉が研ぎ澄まされていくことに他なりません。

そしてまさに研ぎ澄まされた言葉は、限りなく詩に近づいていくのではないのでしょうか。

そんな梨穂さんの研ぎ澄まされた世界に、外の世界への通路が開かれたわけですが、梨穂さんは、今度は、人に伝えるための詩を紡ぎ始めました。短い詩という形式であるにもかかわらず、梨穂さんの詩には、読み手がいったいどんな結末に連れて行かれるのだろうか、はらはらさせられる物語性が、常に秘められています。いつしか詩を聞き取ることだけに専念するようになった訪問の中で、私はわくわくする思いと、たどり着いた終点の深さに驚嘆するという経験を重ねてきました。

こうして、梨穂さんの詩集が出版されることで、より多くの人に、梨穂さんの研ぎ澄まされた世界が届けられる事に、私は心から喜びを覚えています。

ところで、梨穂さんには 1 つの大きな夢があるように思います。それは、この詩集の題名「約束の大地」にはっきりとこめられたものです。

「約束の大地」という詩の中で、その「約束」とは、「運命に負けないで絶望せずにこの世界の歴史を書き換えられるかということ」であり、「理想の絶え果てた大地に立ち、理想の種をまき、もう一度芽を育むことだ」とはっきりと述べています。

言葉がないとされてきた人々にも深い思いがあるという事実を明らかにすることによって梨穂さんは歴史を書き換え、この世界に理想を育もうとしているのです。この約束は「やまゆりよ永遠に咲け」という詩の中の次の言葉にも呼応しています。「いつか本当のことが明らかになった日にもう一度やまゆりを高くかざして悲しみを本当の理解とともによみがえらせて新しい時代のはじまりとしたいと思う」という言葉がそれです。

私もいつか、梨穂さんとともにその約束の大地に立つ日がくることを夢見ています。

涙のわけ

小さい瑠璃色の勇気が私を包み
リラの花の咲く北の国に私を誘う
リラの花咲く北国は涙をためた瞳を癒す
わなわなと泣いたばかりのろうそくのあかりのような
理想の妖精が住んでいる
妖精を私は捕まえて
私の涙のわけを教わりたい
涙のわけはわからなくても
必ずともに泣いてくれるだろう
呼んでみよう 新しい明日を
呼んでみよう 未来の私を
涙を流すのはやめて
私らしさを取りもどし
ランプにあかりをまた灯そう

2012.05.20

「約束の大地」より

“Comparison is the thief of joy.”

「比較は喜びを奪う」

セオドア・ルーズベルト（第 26 代アメリカ合衆国大統領）

鈴木隆矢（翻訳家）

“Who looks outside, dreams; who looks inside, awakes.”

「外を見る者は夢を見る。内を見る者は目覚める」

カール・グスタフ・ユング（スイスの心理学者・精神医学者）

「自分らしさ」とは・・・

—— 青い鳥 ——

The greatest happiness is to know the source of unhappiness.”

「最大の幸福とは、不幸の源を知ることである」

フョードル・ドストエフスキー（ロシアの小説家）

〇〇を「してもらいたい」→「してくれない」で悩み、悔やみ、怒る人の不幸な矛盾
自分がなにを「してあげれるか」つまり、なにを「するべきか」の側に立つ。
相手に（環境に）求めるから、不安になる。恐怖になる。怒りになる。
何より自己に正直になれない。自分らしい生き方にならない。

「してもらいたい」ではなく、自分で（が）する

「してもらいたい」は、相手次第（という恐怖・不自由）となる。

「してもらおう」は、相手に対しての此方の『期待』という美名を借りた【要求・依存】となる、という事を意識しておかなければならない。

『する』『したい』はどこまでも自分（こちら）の意志です。

こちら次第（喜び・自由）自分がやろうと思えばできる。相手の意志を（待つ、伺う）必要はない。

つまり「してもらいたい」の主体は相手（環境）なのです。

しかし、相手を管理・コントロールはできない。（相手次第）

つまり「相手次第」という不安・恐れを、自らが選択（創造）している。

『求める事』というのは「相手の意志に身を委ねる」つまり依存となり、それが不安を生み、恐怖となり、時に怒りとなり、取り返しのつかない事を自らが引き寄せる。

一方で、

まるで成果を期待しない。見返りを求めない。そんな「する」「したい」があるとすると、それは本当の安らぎとなる。

「してもらいたい」ではなく、自分でする。自分がする。

『日本をより魅力的な国にしたい』なら、自分ですれば良いと思う人

『会社をより魅力的な会社にしたい』なら、自分ですれば良いと思う人

自分が（に）何ができるかを思考する人と、逆に、相手（人・会社・国・環境）に期待する

という名の依存・依頼心、そこからの批判・分析・文句・苦情の人が居る。

ならば、

自分が問題解決の当事者になれば良い。

自分がその問題の責任を取れば良い。

そして、その為に自分に（が）出来る事を探せばいい。出来るようになれば良い。出来るようにすれば良い。出来るようにはどうしたら良いかを思考すれば良い。行動すれば良い、それが分からないなら尋ね、教えて貰えば良い。その、どこを取っても思考と行動。

思考と行動こそが現実を変え、安心を手に入れる。

その、自ら主体的に出て行く思考と行動とは、何処から来るのか？

それは「自我」ではなく、「自己」である。

その自己と向き合う為に必要なもの。それが思想・価値観学習であり、企業においては「理念」であり、

「理念」から生じる「目的」である。

「最大幸福」と「不幸」の源は、どちらも「自己」にある。

「目的」を持たない、持てない事による「主体性」の欠如は、

「要求・依存」となり、不満・不足・恐怖・不自由・批判・誹謗中傷を生じ、

それがそのまま、自分に返ってくる。

「自分らしく」生きる。

ただし、自分らしいという言葉で

自分を誤魔化さない。

自分は騙せない。

自己に正直に生きる「自分らしさ」とは・・・

「自分らしさ」には2つある。

「自我」に正直、「自我」に基づく「自分らしさ」とは、逃避である。

自分を正当化する為の「自分らしさ」は、真の自分らしさではない。

「自己」に正直な、「自己」に基づく本当の「自分らしさ」とは、
ゆるぎないもの

そして、全てを受け容れることの出来る強かさと、しなやかさを持つ。

あなたには、真の「自分らしさ」を手にして欲しい。

理 念

楠本先生、貴方、何を言っているんですか!!?

『 何を成したか 』
ではなく、
『 一体、何を成そうとしたのか? 』
が、
大事なのです。

竹内日祥上人

理念についての ChatGPT の回答

Q 「理念」について教えてください

A 「理念（りねん）」とは、物事の本質や根本的な考え方、あるいはそれを支える基本的な価値観や信念を指します。

特に、組織や個人が行動する際の指針となるような、広い視点での原則や思想のことを表します。

以下に理念の具体的な意味や特徴を挙げます。

1. 哲学的な意味

理念は抽象的で理想的な概念として捉えられます。

現実存在するものの背後にある基本的な思想や本質を表します。

2. 組織やビジネスにおける理念

企業や団体では、理念はその組織の目的や存在意義を示すものです。ミッションステートメントやビジョンと関連し、行動方針や文化に大きな影響を与えます。

3. 個人の理念

個人にとっての理念は、自分の生き方や行動を支える信念や価値観のことです。

これに基づいて物事を判断し、選択します。

4. 理念の役割

- 指針として機能：日々の判断や行動に方向性を与える。
- モチベーションの源：理念が明確であれば、自分や組織の目標に向かって進むエネルギーとなる。
- コミュニケーションツール：組織や個人の価値観を周囲に伝える。

理念と現実

理念は理想を掲げるものであるため、必ずしも現実に即しているとは限りません。

しかし、理念があることで「あるべき姿」や「目指すべき方向性」が明確になり、その実現のための努力が促されます。

「理念」は、日常生活や仕事において目標を持ち、それに基づいて行動する際の土台としてとても重要なものです。

Q 「理念」とは、どのようなものでしょうか？

A 「理念（りねん）」とは、物事の本質や根本的な考え方、価値観、指針を指します。具体的には、以下のような特徴があります。

1. 基本的な考え方や価値観

- 理念は、個人や組織、社会が何を大切にし、どのような方向性を目指すかを表します。

注) 方向性  目的明示
の明示は

2. 行動の基盤

- 理念は、行動や意思決定の土台となるものです。
- それに基づいて目標が設定され、具体的な計画や行動が展開されます。

3. 抽象的で普遍的

- 理念は具体的な計画や戦略よりも抽象的で、長期間にわたって変わりにくい特徴があります。

4. 共有されるもの

- 特に組織や団体では、理念がメンバー全員で共有されることで、一体感や方向性が生まれます。

理念の役割

- 個人にとって：自分の生き方や **目的**・目標を考える際の指針となる。
- 組織にとって：社員や関係者が共通の **目的**・目標に向かって行動するための指標となる。
- 社会にとって：価値観や文化を形成し、共通のビジョンを共有する基盤となる。

理念について

—Solution—より

理念・・・

①〔哲〕(Idee ドイツ)プラトンの**アイデアに由来し、感覚世界の個物の原型である非感覚的な永遠の真実在**。

②俗に、事業・計画などの根底にある根本的な考え方。「創業の一」

出典：広辞苑より

①の「理念」とは、プラトンが説いたアイデアや観念に関する学説の要素ですが、多くの方が「理念」と聞いて思い浮かべることは、②の企業理念や経営理念といった会社や組織運営に関して使われるビジネス用語の認識が強いと想定されますので、今回は、②の意味の「理念」について主に解説していきたいと思います。

ビジネスや経営で使われる

「理念」とは「物事に対して“理想“とする”概念“」のことで、
「こうあるべき」というベースの考え方を指します。

企業では、会社の方針や指針・社員に求める像などを表現する時によく使われます。

また企業で使われる理念は、ビジネス用語で時折「Philosophy（フィロソフィー）」とも言われる場合があります。

さらに、漢字に分解すると、その意味が深くわかります。

ことわり

理

「物事の筋道。道理」

おもい

念

「常に心の中を往来している
おもい」

「常に心の中にある、物事の筋道」

「理」は「ことわり」と読む漢字。意味は「物事の筋道。道理」です。

「念」は「おもい」と読む漢字。意味は「常に心の中を往来しているおもい」

二つを合わせると、「常に心の中にある、物事の筋道」といった意味となり、常に心の奥にある、変わることのない想い（念）が理念です。

そのため、ご自身の心の中で一番大切にしていることを言葉に明文化したものが「理念」と呼ばれるのです。

企業における理念の重要性を、野球部で例えてみます。

では、なぜ、理念は企業に必要なのでしょうか？

それをある高校の野球部の事例で見てください。

あなたは、野球部のキャプテンだとします。

その野球部にこんな A～C くんというメンバーがいるとしましょう。

A くんは「プロ野球選手になりたいから、野球部に入っている」

B くんは「中学も野球をしていたから、その流れで野球部に入っている」

C くんは「仲良い友達が入るから、野球部に入っている」



ある日、試合で致命的なエラーにより、チームは負けてしまいました。

試合後、キャプテンのあなたが皆を集めて、「もっと守備の練習を徹底しよう！」と言ったとします。

3 人はどんな反応をするのでしょうか？

A くんは「そうだ！もっと強くなろう！」ときっと思うでしょう。

B くんは「まあやるけど、そこまで熱血にやらなくてもいいのでは？」と思うかもしれません。

C くんは「そんなハードな練習には耐えきれない」と思い、部活を辞めてしまう可能すらあります。

つまり、人が複数人集まった場合は、複数の価値観・考え方が存在するのです。

この時に、全員で「何のために（目的）」や「どこを目指して（ゴール）」などの共通の目標が重要になってきます。

甲子園常連校は、ほとんどの部員が「甲子園に出る」と共通の想いを持っているから強いのです。

そして、それは野球部として正式に掲げているから、その想いが全部員に浸透しているのです。

では、あなたの会社ではそういった共通の想いは全スタッフに浸透しているでしょうか？

そもそも掲げられているでしょうか？

全ての企業に、理念が必要なわけではない。

では、企業において絶対に必要なのか？

結論から言えば、NO です。

上場を目指さないのであれば、

「企業において、理念は重要ですが、必須ではありません。」

※株主・投資家は「理念」を投資判断の重要指標に置かれるので、上場を目指すのであれば、必須となります。

企業では、下記の条件が揃う場合は理念が存在しなくても十分に機能します。

- ①経営者にカリスマ性があり、経営者の決断に全従業員が統一して動ける
- ②従業員一人ひとりの仕事に対する意欲が高く、生産性が高い
- ③全従業員が会社の重要事項を察知し、統率を保てたまま自発的に行動できる
- ④従業員の定着が高く、入社後の即戦力化が期待できる。

「そんな会社が存在するのか？」と疑問を持たれるかもしれませんが、企業を創業した当初タイミングでは、この条件が揃っているケースがあります。

創業メンバーの場合は、ビジネスやサービスへの可能性を感じて参画しているため

「何のために（目的）」や「どこを目指して（ゴール）」などの理念の要素が存在しなくとも、目標数字や計画だけが存在すれば機能する状態を作れるのです。

理念は、ある方が越したことはない重要事項ですが、必須条件ではありません。

ただし、従業員数が増えて、上記の4つの要素が崩れ始めてきた時に、理念が必要となる時期が訪れます。

経営者の求心力の低下や従業員の成長スピードの鈍化、従業員の定着率の悪化などが発生した際に、理念を設定する必要性が高まる傾向にあります。

理念は3つ側面で重要

では、企業理念にはどのような目的や効果があるのでしょうか？

企業理念の目的には、主に3つの側面を持ちます。

①経営者本人における重要性

②社外における重要性

③社内における重要性

① 経営者本人における重要性

経営者にとって、理念が重要な理由は、経営者が判断をする立場だからです。様々な判断を下すことを役割である経営者にとって、理念は経営判断の軸となります。

経営が順調である時よりも、問題が発生したり、判断に迷ったりした時に理念は役立ちます。そして方向性を間違えずに基本に戻ることができるのです。→ **信の基軸**

② 社外における重要性

社外における理念が重要な理由は、経営は社外の関係性で成り立っているからです。

ここにおける社外とは「顧客」「協力業者」「地域」「求職者」「株主・投資家」のことを指します。

会社としての想いや方向性を社外に発信することで、社外の人に会社の存在意義を認知してもらい、また知られたことによる責任感が社内に生まれます。

③ 社内における重要性

社内における理念が重要な理由は、組織は考え方や価値観の違う人の集まりだからです。多様な考え方が存在する中では、各自がバラバラに動いてしまうことは当然です。しかし、会社の基本的な指針や方向性を浸透させることで、従業員が統一した価値観で判断できるようになり、強い組織を作ることができます。

④ 理念で期待できる効果・メリット

理念を浸透させることで、得られる効果は以下のようなものがあります。

□ 社外（協力業者・顧客・株主/投資家）面

- ・会社の存在意義を公言することで、企業の信頼度を高められる

□ 社外（採用）面

- ・同じ志・方向性に共感した人材を獲得できる
- ・働きやすさだけでなく、仕事の意義や働き甲斐を重視した人材を獲得できる

□ 社内（経営者自身）側面

- ・「何のためにこれからも頑張る続けるのか？」の経営者のモチベーションを発見できる
- ・自分の大切にしている考え方を社員に伝えやすくなる

□ 社内（人材育成）面

- ・自社の方向性や基準を伝え、社員にモチベーション（働く意義）を与えられる
- ・従業員のベクトルを統一させることで、一体感を生み出せる
- ・経営者が望む組織風土や企業文化をつくることできる

「企業理念」と「経営理念」の違い

理念でも、よく「教育理念」や「行動理念」や「経営理念」など複数の言葉が存在します。これにはどのような違いがあるのでしょうか？

簡単にいえば、「●●理念」の「●●」に関しての軸と判断すれば、わかりやすいと思います。

教育理念＝「教育」に対しての「根本的な考え方」＝どう教えるべきか？

行動理念＝「行動」に対しての「根本的な考え方」＝社員の行動はどうあるべきか？

経営理念＝「経営」に対しての「根本的な考え方」＝経営をするにあたってどうあるべきか？などです。

その中で、特に多くの人が疑問に持つのが「企業理念と経営理念の違い」です。

こちらは少し詳しく解説します。

よく企業理念と経営理念は同義語で認識されることが多いのですが、厳密には少し違いがあります。

企業理念は、会社としての大切にしたい考え方

経営理念は、経営者として大切にしたい考え方

のことを一般的には指します。

□ 企業理念

企業理念は、会社として最も重要にする考え方であり、存在意義や目的・価値観を表明したのですが、主に創業者によって作られ、企業が存続する限り、継続的に掲げ続けられる傾向があります。ただし、「基本理念」や「法人理念」などの表現で使われることもあります。

□ 経営理念

一方で経営理念は、経営をする上での会社の存在意義や目的・価値観を表明する点は企業理念と同じですが、あくまで経営者個人の考え方であり、「自分が経営者として、この軸で進めていきたい」と明文化したものを指します。そのため、経営者が変わった際や時代のニーズが変わることで**変更する場合**もあります。

★ ほぼ同義語と考えても問題はない。

ただし、厳密にはこのような違いはありますが、多くの企業ではこのように細かく使い分け

られているわけではありません。

そのため、「ほぼ同義語」と考えてもらっても構いません。

※広辞苑には「経営理念」は存在しますが、「企業理念」という文言は存在しません。それほどの違いの差だにご認識ください。

傾向としては、創業者が掲げた理念は残しておきたいが、2代目経営者をご自身で改めて経営する方針を掲げたいという時に、「経営理念」として掲げ直すことがあります。

⑤「ビジョン・ミッション・バリュー」との違い

では、さらによく聞く「ビジョン」や「ミッション」・「バリュー」は何が違うのでしょうか？

3つに関しては、以下のように考えていただけるとわかりやすいと思います。

「ミッション」とは、果たしたいと考えている使命（目的）

「ビジョン」とは、ありたい・なりたいと考えている姿（ゴール）

「バリュー」とは、行動や意思決定の指針とする考え方（価値観）

なぜ、このように細かく分かれているのでしょうか？

それは、組織に所属する側（社員）にとって、この3つの要素がそれぞれ違うだけでどこに所属するのかの判断軸が変わるからです。

□ 高校の野球部でもう一度考えてみましょう。

A校とB校の野球部は、共に「甲子園で優勝」を掲げているとしましょう。

これはビジョンです。

では、ミッションはどういうものなのでしょうか？例えば

A校は「地元の活性化」

B校は「我が校からプロ野球チームに輩出する」

これだけで、その野球部で野球をする目的が変わります。

つまり、ミッションとは「目的」なのです。

また、バリューは何になるのでしょうか？例えば

A校は「自主性を重んじたプレーで勝つ」

B校は「徹底的なスパルタ教育で勝つ」

ここで、野球部に所属する上での姿勢やスタンスが変わります。

バリューとは、「軸や価値観」なのです。

甲子園で優勝する ビジョン



では、ある一人の野球青年が、甲子園を目指して入部を考えた時、同じ「甲子園で優勝」というビジョンを掲げた A 校・B 校のどちらでもいいかと言うと、決してそうではありません。

なぜするのか？どのような軸で進むのか？も選ぶ大きな判断軸になります。

このように、理念と言っても、「目的」と「ゴール」と「価値観」がそれぞれ違うだけで経営や人材育成は大きく変わってくるのです。

そしてもし、これらの3つともが存在していない野球部だったとしたら、この野球部では、各自が自分の価値観や相手への勝手な期待で、プレーやコミュニケーションを取ることになるでしょう。

そうすれば、ミーティングをしていても、相容れない人とは話が合わず、何を決めるにあたっても、前提が違っていると、やりづらくなります。

結果、「この野球部では合わないな」と辞めていく人もいるでしょう。

今回は野球部で例えましたが、企業においても企業規模が大きくなるほど、この3つの要素の違いが大きな影響を及ぼしやすくなるため、特に大手企業では細かく設定している場合が多いのです。

□ 理念とビジョンの違い

またビジョンと理念の違いとしては、理念は目的であり、ビジョンは目標であるとよく例えられる傾向があります。

※企業理念や経営理念は、「ミッション」や「バリュー」の同義語として掲げている企業もあります。

ただし、ミッション・ビジョン・バリューの3つが全て揃っていないといけないわけではありません。

もしこれから理念を掲げたいという場合は、まずはご自身のこれまでの人生を振り返り、大切にしたい価値観を抽出することから始めてみることを推奨します。

理念は“掲げる”よりも、“語れる”ことで会社を強くする

これまで理念の定義をいろいろと伝えましたが、定義をそこまで重視する必要は、実はありません。

大切なことは、正確に掲げるよりも、きちんと社員が共感してくれること、そして経営者・経営幹部が高い熱量でその理念を伝えきれる内容かです。

例えば、「地域に貢献する」という文言は、多くの企業の理念で使われます。

この思いや文言自体はとても素敵ですが、重要なのは“その背景”です。

「なぜ、そこまでして、この地域に貢献したいか？ (Why)」

「『地域に貢献』とは、どんな地域を作ることなのか？ (What)」

「どのような形で、地域が良くなっていくイメージなのか？ (How)」

などです。

どれだけ綺麗な言葉を掲げても、そこに強い思いがなければ、伝わりません。

伝わらなければ、心に響かず、心に響かなければ、人は動きません。

□ 理念を掲げる上で最も気を付けなくてはいけないこと

それは

当たり前すぎることは
相当な工夫をしないと、
人には響かないと自覚する

ことです。

例えるなら、「世界を平和にする」ことに対して、日本では反対する人はほぼいないでしょう。しかし、具体的に世界平和の実現にご自身の人生をかけて動いている人は、あなたの身近に何人いるでしょうか？

また「感謝」という言葉ですら、誰しもが感謝は大事だと思いつつ、日ごろから「ありがとう」の一言が言えないことで、苦しんでいる人もいます。

つまり、今の私たちは素敵な言葉を日常的に浴びすぎて、言葉に麻痺をしている状態なのです。

だからこそ、重要なのは理念の文言よりも、その背景であり、特に「Why (なぜ)」がどれだけ社員に伝わるかなのです。

その第一歩目は、経営者や経営幹部陣が、その理念を掲げる理由「Why」を社員に響くように伝えられるかどうかにかかっています。

もちろん、理念には「社外からの見られ方」の側面もあります。

しかし、組織をまとめるために作られるのであれば、まずはご自身の内側から出てくる想いや社員と共有したい考え方を言葉にまとめることに注力することです。

そうすることで、

社員は理念をもとに自身の仕事の在り方を考えられるようになり、
社内で協力し合える強い組織を作ることができます。

第9期 経営人間学講座 第2講
「経営理念・目的」と「抜本革新」 2

—— 目 次 ——

■解説：企業に「経営理念」が必要な理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

〔I〕企業に求められる経営理念策定のために基礎となる価値観

■「企業」とは「戦略」・「ビジネス」という意味・・・・・・・・・・・・ P 2

■「経済」は「経世済民」が原語

■「経済」という言葉を翻訳用語に当てた日本人の思想性

■「経営」とは「唯一勤務」という意味・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3

■「理念」とは「真理に基づいた理想によって得た信念」という意味

■話を聴いたら奮い立つような内容の理念でなければならない・・・・・・・・ P 5

■思想的裏付けのない理念は何の役にも立たない

（1）「経営理念」は憲法の前文であり、ヴィジョンが憲法である

■日本国憲法は平和憲法であり、民主憲法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6

■戦後のドイツと日本のあり方の違いは思想性にあった

■今後アメリカが日本の国防の為に多大な犠牲を払う事はなくなっていく・・・・ P 7

■憲法の「前文」が「理念」にあたる

■憲法改正の議論についてのお上人様の解釈

■「経営理念」の定義：コーポレートフィロソフィー・・・・・・・・・・・・ P 8

■企業はお客様に評価される哲学がなければいけない・・・・・・・・・・・・ P 9

■思想や哲学は自分を振り返る鏡になる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 10

■日本の教育には思想・哲学を学ぶ機会がない

■思想を学ばない限り自分の信じているものを説明できない

■思想・哲学が思考のお手本を与えてくれる

■日本人は結婚する時の条件を知らないで結婚してしまう・・・・・・・・・・ P 11

■理念は方向性を指し示す羅針盤

■理念は思考性・方向性・価値性の3つの柱で出来ている・・・・・・・・・・ P 12

■思考性を共有しておく社員が自主的自発的に動き出す

■思考性には方向性が出てくる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 14

■理念はものを考える為に必要な思考の宝庫に相当する万華鏡

■理念の講義だけで17時間以上はかかる

(2) 「理念」の定義と「理念策定」の狙い

■理念の定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P15

■目的と戦略が一つになるとヴィジョンになる・・・・・・・・・・P16

(3) 経営理念の構造と機能性

■理念の四つの機能：①求心力

■求心力が意志を生む・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P17

■理念の四つの機能：②統合力

■思想哲学を知らない経営者が作る理念は人を団結させない

■統合の力がなければ価値は生み出せない・・・・・・・・・・P18

■思想を学ぶ時の心のスタンスが問われる

■思想に気に入られないと駄目・・・・・・・・・・・・・・・・P19

■自分の無知に気づく事は最高の知性の持ち主になれたという事

■異なる価値と価値を一つに繋ぐ現実を作っていく為に思想哲学を学んでいる・・P20

■統合の思想に基づく理念を全社員で共有する必要がある

■思想教育のお陰で経営について立派な事が言える社員が育つ・・・・・・・・P21

■問題意識を持って講義を聴くと信念が出来てくる

■理念の四つの機能：③革新力・・・・・・・・・・・・・・・・P22

■人間を自己革新させるのは理念しかない

■筆耕を一日に1時間すればよい

■自分を自分で感動させられない限り、自分の運命は変わらない

■自分の存在価値を思想的裏付けをもって説明できなければいけない・・・・・・・・P23

■勝負で負けるのは負ける側に負ける原因をつくった時だけ・・・・・・・・P24

■企業が倒産する理由は組織の中にある

■家庭が崩壊するのは家庭に問題があるから・・・・・・・・P25

■理念の四つの機能：④共感力

(4) 理念・信念・行動の三大原理

■理想を持って生きている人と持たずに生きている人の違い・・・・・・・・P26

■時間だけが資産…過ぎ去る時間は戻らない

- 自分自身に向かって追求していく凄みがない人は経営者を辞めるべき・・・P 2 7
- 思想を学ぶと無我になる
- 思想的な立場を踏まえて発言すれば誰もが素直に聞いてくれる・・・P 2 8
- 自分の信念を説明できなければいけない

〔Ⅱ〕「ヴィジョン」の機能を戦略の中枢に位置づけ抜本革新の起動力とする

- 人間はパラダイムによって思考力が確保できる・・・P 2 9
- 企業で評価される為には世の中のパラダイムの変化に精通していなければいけない
・・・P 3 0
- 人間に必要な価値あるものは全てパラダイムから生まれる
- パラダイムのない人は同じ失敗を無限に繰り返す

パラダイム効果について

- 人間は受け容れたパラダイムに完全に支配されるという事実に気付かない・・・P 3 1
- 近代科学のパラダイムに変わるきっかけを作ったガリレオとコペルニクス
- トーマス・クーンによって人間がパラダイムに支配されている事が明らかになった
・・・P 3 2
- ある思考パターンを通してしか自分と自分以外のものとの接点が創れない
- パラダイムという門番が自分の都合の悪い情報を通さない・・・P 3 3
- 低いパラダイムと高いパラダイムの違い・・・P 3 4
- 私達が何を理解し自覚し認識できるかは自分の意志でなく過去受け容れたパラダイムが決定している・・・P 3 5
- 人間の五感の全てが受け容れたパラダイムに完璧に支配されている
- 人生における間違いは全て受け容れた低いパラダイムのせい
- 自分の低いパラダイムが人生の最大の敵であり、その事に気づく事が思想学習である
・・・P 3 6

(2) 新しい「ヴィジョン」の範囲と戦略づくり

- 理念、目的、目標、ヴィジョンが機能的に完全に結びついていないといけない・P 3 7
- ヴィジョンという言葉は未来像という意味・・・P 3 9
- ドメインとコア・コンピタンスという二つの特徴によって戦略とヴィジョンが一つに融合している

- 戦略を中心的に支えるのが目的であり、目的は社訓や指導を生む
- 新しいヴィジョンの範囲と戦略創りについて
- 未来先取り思考とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4 0
- これまではオペレーションマネジメントによって企業戦略を構成していた
- 数値の整合的管理手法が戦略を考える上で重要なファクターだとされてきた理由
- 今日の大混乱を巻き起こしたのは何故か・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4 1
- 変化の小さな時代は、質を無視して数値に特化し、効率能率だけをテーマにした戦略は効果を生んできた
- お客様のニーズの変化（量より質）に効率だけでは応えることができなくなった？
- アメリカから生まれた「ヴィジョンマネジメント」とは・・・・・・・・ P 4 2
- 過去延長型ビジネスとは
- オペレーションマネジメントが効果を失った理由
- 数値管理による未来予測が外れるようになった理由・・・・・・・・ P 4 3
- 数字の管理が企業をやる気にさせてくれるか
- 戦略、ドメイン、コア・コンピタンスを巻き込んだヴィジョンならば未来が保証される
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4 4
- 10年後の我社の青写真を特定するためには、10年後の日本社会の明確な想定が必要となる
- 10年後の戦略立案のポイントとは・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4 5
- 未来マネジメントの為には必要な情報とは何か
- ヴィジョンにより我社独自の戦略が明らかにされる
- ヴィジョンが10年後に理想的な組織になる為に必要な求心力を創る・・・・ P 4 6
- 思想学習が進むほどヴィジョンマネジメント組織に必要な人材に自発的になろうとする
- オペレーションマネジメントには数字を動かすだけで組織を操れる楽しみがあるだけ
- 未来ヴィジョンマネジメントは仕事そのものが面白くなる
- 思想学習が進むと責任感が出てくる・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4 7
- 仕事の厳しさをつきぬけたところにある喜びを経験できるのは開放系の組織だけ
- 人間は思想抜きには、未来ヴィジョン経営の厳しさにはついていけない・・・・ P 4 8
- ヴィジョンは外部組織へのメッセージになる・・・・・・・・ P 4 9
- オーナーと経営責任とをはっきり分け、力のある社長を雇い入れる時代となった
- 以前の恵まれた時代に苦勞もなく出世できた人と、実力ある人との違いとは
- 思想には理解できるセンスと頭のよさが必要・・・・・・・・ P 5 0
- 未来ヴィジョン経営の最大の特徴は学習組織体の確立・・・・・・・・ P 5 1
- ある思想を学ぶ組織の事例
 - ・建て直しに失敗すれば帰らないという決意が出来たら問題は解決する
 - ・人間と人間が結びつきは思想の力なしにはありえない

- ・思想的決断には勇気が必要となる・・・ P 5 2
- 「理想」とは現実との統合であり、「空想」は現実を無視するという意味
- 理想的未来ヴィジョンマネジメントの特徴は理想的な生き方の出来る人間に自己革新していくこと・・・ P 5 3
- 宥めたり赚したりしながら危機感を持たせることがリーダーの責任
- 上司は社員の将来の為に一番本人に厳しいことを言える信頼関係を創っておく・ P 5 4
- 人間は相手を納得させるテクニックがあるのではないかと思いがちになる
- 自分自身が納得できた話は他人は素直に聞く
- ・失敗した話でも、自己本位な話し方をすると嫌われる・・・ P 5 5
- ・思想のお話を素直に受け容れられる自分になった理由を言葉を尽くして説明する
- ・本当に人に話をして聞いてくれた人が感動するお話とは
- ・思想を通して自分の中に何を発見したかを自慢話のように話してはいけない
- ・感動しない人間が一人もいないようなお話が出来る自分になるために・・・ P 5 6
- 思想のお話を聴かない限り、自分のパラダイムから脱出できない
- ・ある母と息子の事例

ヴィジョンの三つの「ポイント」について

- 第一のポイントは「自己革新」・・・ P 5 7
- 第二のポイントは「戦略」
- 第三のポイントは「コア・コンピタンス」・・・ P 5 8

ヴィジョンの三つの「構造体」について

- 第一の構造体「社員満足度」
- 第二の構造体「顧客満足度」
- 第三の構造体「社会貢献度」
- 思想を学んだ上でヴィジョン創りに踏み込めば信念を持って語れるようになる・ P 5 9
- 閉鎖系組織ではヴィジョン経営はできない
- 思想を学んだリーダーが指導するから、企業が運命共同体になる

コア・コンピタンスについて

- ヴィジョンは戦略と共に一つに合体してドメインとコア・コンピタンスを創る・・・ P 6 0
- コア・コンピタンスとは…①「業界において瞠目に値する企業力、戦力のこと」
- コア・コンピタンスとは…②「お客様に特定の限られた特殊な利益を還元出来る一連のス

キルや技術のこと」・・・・・・・・・・ P 6 1

■コア・コンピタンスとは…③「幅広い製品やサービスの競争力に多大に
貢献する技術のこと」

■コア・コンピタンスとは…④「会社の成長と競争力を決定的なものにする力のこと」

■まとめ・・・「コア・コンピタンスとは『スキルの統合』のこと」

・多大な犠牲を払いコア・コンピタンスを創る会社の風土が生まれた理由・・・・ P 6 2

■これからは技術を統合的思想の枠組みの中で運営して行くことが、コア・コンピタンスと

[Ⅲ]「経営目的」と「経営目標」との相関と各々の意義・役割

■ドメインとは生存領域と言われ、我が社が生存し続けるために必要な専門領域のこと
・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6 3

■目的には理念から導き出される目的と、ドメインから導き出される目的がある

■感動・感激という共感性が目的の共有と存続を可能にしている・・・・ P 6 5

■遠心力と求心力が拮抗した時に生命力が組織として生まれる

■目標とは「対決」である・・・・・・・・ P 6 6

■周囲の人が心から協力したいという気持ちに自然にさせられてしまう内容でなければ思
想的目的とは言えない

■目的特定の狙い～目的をビジネスに活かすにはどうすれば良いのか～・・・・ P 6 8

■「何のために働くのか」とは、どういう目的のためにこの仕事をしているのかという意味
でもある

■思想を学ばなければ自分自身と対話できない

■文脈を追えるようになるために、筆耕を手に入れる工夫が必要・・・・ P 6 9

■たくさんのコンテクストを持ち、人に説明したりする際に使えるようになることが筆耕
によって可能になる

■コンテクストを自分で思想の講義の中でみつけていく・・・・ P 7 0

■思想学習を通してコンテクストを使って目的を明瞭な言葉で表現できるようになる必要
がある

■会社の目的とは仕事をする主体者が自らの生存のために選び取っている仕事の内容とい
う意味・・・・・・・・ P 7 1

■企業理念と生存領域というのは非常に深く関係している

■生存領域の目的は3つのことが問題になる・・・・ P 7 3

■生存領域に関する内容と目的とつながる意味を今後改めてご紹介していく

【『理念』と『挑戦』の関係】と 【『努力』に対する『認識』の違い】について

本物の【理念】は、必ず目指すべき【目的】を特定する。

本物の【目的】は、必ず具体的且つ必達の【目標】を特定し、

必達の【目標】は、必ず即【思考・行動】を伴う。

つまり、

本物の【理念】は必ず、目的(現実と理想のギャップ)達成の為に、

現状からの脱却という【挑戦(行動)】をする事になる。

そして、

この【挑戦】という【思考と行動】は、組織・個人を必ず【成長】させる。

つまり、

【成長】とは、現状の問題を知り、

この問題を解決すべく【挑戦(行動)】するという事である。

ということは、

【挑戦】という「行動」無くして、個人も企業も【成長】は無い。という事。

つまり、

【挑戦】する人とは「問題を解決する当事者」、

問題とは「現実と理想との相違」を知り、語ることが出来、その為の行動に出る人

だから、

【挑戦】する人、つまり行動に出る人が、信頼・尊敬されるのは至って当然の事である。

この時、

【挑戦】という「行動」を取っている人は、

その行動という名の【努力】をしているなどという認識は全くもって無い。

つまり、
「努力」をしている事が目的では無いから

「努力」を評価してほしいとか、
評価されたいとか、
「努力」その事自体に重きは置いていない。

では一体、何に重きを置いているのか？

【挑戦】して、これ(問題)を【クリアー（乗り越える）】する事にこそ
全ての重きを置いている。

自分は頑張っている！
自分は努力している！

という事を訴えたい人、認められたい人が居る。

そして認められないと悔やみ、悩む人が居る。

一方で、
自分は、これ(問題解決)に【挑戦】している。
そして、何としてもこれを成したい！
と、日々・刻々と、常に考え行動している人が居る。

そして、だからこそ、
確実に強くなって行っている。

果たして、どちらが幸福な人生なのか？

その幸福を渡すものこそが、本物の【理念】であり、
その責任を果たす人を、思想的【経営者（リーダー）】と呼ぶ。

ここに居る、ここで学ぶ人達である。

何故？
各人、一人ひとりが自ら成長し強くなって、
全体(環境)のために貢献しなければならないのか？

逆に、もしそうでないとしたら、
それは、
今のままの私で(つまり、成長しない・強くないままの私で)
どこかに、その私に良くしてくれる人を、組織を、探そう…という、
自らの幸福(成長)を自分自身(自己)に求めるのでは無く、
何処かに居るはずの他人(誰か他の人)に委ねている、という事。
つまり、
私の幸せはその他人(相手)次第であるという認識をしている事になり、
結果、
もし、そんな相手が居なければ不幸となり、
もし、いたら居たとして、
その相手に気に入られるかどうか？ 認めてくれるかどうか？
その事だけを気にして生きて行く事になり、そこに確かな、普遍的安心は無い。
そして、もし仮に認め、気に入られたとしても、
それがいつ壊れるのか？ その保証も、その相手に依存する事(相手次第)になる。

そんな連続の中に、「真なる幸せ」は存在しない。
その意味に於いて、絶対に幸せ(安心)にはならない(不安＝不幸)。

幸せを他に委ねること(外に求めること)の中に「真の幸せ」は存在しない。

つまり、
私が、幸せになる。
私が、信じられる人を育てる。
私が、この組織を立派にする。
その為に、
私は、**私の中に**、信じられる私を見出す必要がある。
その為に、
この普遍性を持つ高い価値観を学び続け、常に共に生きて行く。

何故？
全体(環境)の為に貢献しなければならないのか？
自己と環境(家庭・組織・国家・人類・大自然)は、切り離せない、ひとつだから。
部分と全体との関係性とは・・・つづく

ここで聞いた話を、ここにいる経営者の方々が、聞いた話として、
会社で話しても価値にするのは難しい。
聞いた話をされても、誰も、何も、感動も、共感もしない。

前提として、社長が言っても、「社長だからそう言うんだよ。言えるんだよ」と、
立場が言わせているとしか受け止められない。
社長自身が学ぶ人では無く、知識を得る人だったら尚更の事。

聞く人と同じ立場の社員、いや、聞き手より、もっと不利な立場の人、
その人が語る時、その人が行動に出る時、気づきを与える力になる。価値になる。

聞き手と同じ苦しみ・痛みを持つ自分だから、
聞き手と同じ弱さ・醜さ・狡さを持つ自分だから

その言葉と行動が、同じ価値観を持つ多くの人の役に立ち、
苦しみ・痛み・弱さ・醜さ・狡さが価値を創造する核となり、
このマイナスをプラスに大転換する事ができる。

幹部イノベーション研修（平成 16 年 9 月 11～12 日 志賀島）

質疑応答 1 より 一部抜粋

— 前 略 —

会社の先頭に立つ、その会社を引っ張っていく偉大な影響力のある人が、「分離思考」でいたのでは、コミュニティと個人との関係の深さがどんなに大切かという考え方は一切出てこないのです。

ひとりひとりが、個人と全体という関係性を全く無視する考え方になっていくのです。

戦略的なテーマで言えば、プロセスを無視して結果の売上だけ伸ばせば良いというような考え方です。プロセスが大事なのです。社員ひとりひとりがそのビジネスのプロセスで自分の役割、自分の役どころを自分で見つけていかななくてはなりません。

ところが、儲かるか儲からないかという収益性や目標数値ばかり出てくるのです。これを目標管理では「定量目標」と言っています。定量目標を構築する為の理論は沢山あります。

その定量目標を達成する為の、「定性目標」に関する事が全く出てこない。売上の目標を各部署に配当したら各部門は今年、これだけ儲けなくてはいけない。それを一人ひとりに割り振ったら、一人で収益はこれだけ確保しなさい。それは出てくるのです。

それをどういう手段と方法を使えば、その売上の収益を一人ひとりが上げられるのか。どういう方法で仕事に取り組み、仕事の内容をどこに絞り込んで、そしてその数字の目標を達成する。定量というのは、目標は目標でも数字で表現できるものです。定性というのは数字では表現できないものなのです。だから、定性なのです。つまり、ここで数字の裏付けになる行動のとり方を指導しなくてはいけないのです。売上目標を数字で表現することぐらいの事は誰でもします。問題はそれを達成するのに私はどう受け止め、どう思考し、どう行動すれば良いのですかと。能力によるマネジメント手法にはその指導が出てきません。つまり、全社員が一人ひとりの個性や能力や立場の違いを活かして積極的に関わっていく、その関わる接点が作れないのです。それと同時に、目標の数字を達成する為に一人一人にどんな仕事を、どんな内容である事が必要か、それをどういう風に取り組み、どういう風に管理していけば良いのか。その内容を含んだ仕事の進め方の管理です。そういうのは定量的な目標管理には出てこないのです。出て来ても言い訳程度しか出て来ないのです。

— 後 略 —

1. 物質的な満足だけでは本当の幸せに届かない

新しい服や最新のガジェット、高級車…。物を手に入れると、一瞬は満たされた気持ちになります。でも、その喜びは長続きしないことが多いですね。本当の幸せは、心が満たされていること。穏やかでいられる生活の中にこそ、幸せが隠れています。

2. 他人に期待するのをやめて自分を変える

「あの人がもっと優しくなってくれたら」「周りが私を理解してくれたら」と、他人に期待する気持ちは誰でも持っていますよね。でも、他人を変えることはできません。変えられるのは自分だけ。自分の考え方や行動を変えることで、見える世界が変わり、幸せの感じ方も変わるはずです。

3. 比較するのは他人ではなく昨日の自分

SNS でキラキラした生活を見て、「自分にはあんな幸せはない…」と落ち込んでいませんか？でも、他人と比べる必要はありません。大切なのは、昨日の自分より少しでも成長していること。「自分のペースで進んでいる」という実感こそが、本当の幸せを感じる鍵になりますよ。

4. 「当たり前」と思っていることこそありがたい幸せ

朝起きて健康でいられること、食べ物があること、家族や友人と過ごせること…。普段は気づかないけれど、これらは実はとてもありがたいことです。当たり前に見える日常の中に、たくさんの幸せが詰まっています。「ありがとう」と感じる瞬間が増えるほど、心が豊かになるはずですよ。

5. 他人任せの幸せではなく自分で自分を幸せにする

「誰かが幸せにしてくれる」と期待するのはもうやめましょう。★自分で自分を幸せにする力を持つことが大切です。自分の好きなものを見つけ、心が喜ぶことを自分で選んでいく。そんな小さな積み重ねが、心を満たしてくれます。

まとめ

どうでしたか？幸せは、どこか遠くにある特別なものではありません。むしろ、日常の中にたくさん転がっているもの。大切なのは、それに気づく心を育てることです。SNS の華やかな投稿に惑わされず、あなたらしい幸せの形を見つけてください。「小さな幸せを大切にすること」こそが、毎日を穏やかに過ごす第一歩です。

予 告(1)

次回「高次元経営実践勉強会」

第8講(2025年3月3日)

— 目 次 —

[Ⅰ] あなたの会社は、既に変革の対応を完了しているか

- (1) 歴史的なトレンド(潮流)の変化
- (2) 変化に対する一般的抵抗
- (3) 自己否定を拒む「自己呪縛」

[Ⅱ] 企業に求められる経営理念策定のために基礎となる価値観

- (1) 企業に理念が必要であるとされる前提条件
- (2) 理念の定義と「理念策定」の狙い
- (3) 経営理念の構造と機能性
- (4) 理念・信念・行動の三大原理

[Ⅲ] 「経営目的」と「経営目標」の相関と各々の意義・役割

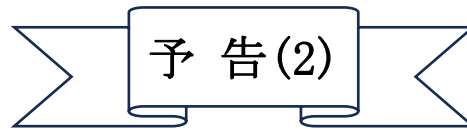
- (1) 「目的」を確信する不可思議な効力
- (2) 「自己」の本質に具わる「目的」との相関
- (3) 「目的」と「目標」の相互互換的統合の現実

[Ⅳ] 「ヴィジョン」の機能を戦略の中核に位置づけ抜本革新の機動力とする

- (1) 過去のパラダイムが通用しない
- (2) 新しい「ヴィジョン」の範囲と、戦略づくり
- (3) 「ヴィジョン」の機能と類系別整理

《 特 別 資 料 》 有機体(システム)の定義

- ❶ 思想と能力の本質的相違
- ❷ 有機体システムにおける機能性の特徴
- ❸ 21世紀の企業における「三大理念」の(1)
々 (2)
々 (3)



(2025 年 2 月 7 日)

グローバル・経営者フォーラム in 九州
「入門篇」にて開放予定

「社員共同体」の創造

- 「戦略経理共同体」→ BANGASHILA 現在進行中
- 「戦略総務共同体」立ち上げ
- 「戦略人事共同体」立ち上げ
- 「士業スタッフ共同体」立ち上げ

※いずれも、講師は私以外の者です。

私では出来ません。

私では、意味の無い共同体になってしまいます。

A I の誕生は、仕事そのものを根底から変革するのみならず、
生き方すら大変革させる。

その時、**新しい経営のカタチ**が創造される。

自社を越えて、地域を越えて、国をも超えて、生じてくる「シン・共同体」

顧客が大変になる時代

士業共同体のメンバーの顧客になるには、その顧客自体が共同体メンバーとなるので、
その条件が問われる。

つまり、

「顧客が選ばれる時代」になる…というか、創る…というか（既に始まっている）

すると、例えば……どうなるのか……？

高い価値観を深く学び実践に活かす！

高次元経営 実践勉強会 第4期 DVD 販売決定！

「受講した内容を繰り返し視聴したい」

「大切な人(社員、ご家族、友人)と共有したい」

「高次元を知人に紹介したいが伝え方がわからない」

というご意見を多数いただき、第4期 DVD の販売を決定しました。

DVD セット

受講生
限定販売

全8講 定価:165,000 円(税込)

第4期受講生限定:82,500 円(税込)

※ご本人様の継続的な学習、大切な方々へ思想学習を共有し広めていただくために
お役立てください。そのため必ず購入者ご本人管理のもと共有いただき、
貸出しなどはご遠慮ください。

※高次元経営の受講生のみ購入可能な商品となります。

※HP より第1期～第3期の DVD も発売中です

■お申込みはこちら



<https://nipponteki.com/high-dimensional/dvd04/#form>

〈お知らせ〉

高次元経営 第Ⅴ期 スケジュール

第 1 講～第 6 講 終了

今回の講義

第7講

2024年12月18日（水）

本編⑤

『理 念』について

特別講演

2025年2月7日（金）
前講14:50～15:50(60分)
後講16:10～17:10(60分)

第14回グローバル・経営者フォーラム in九州

■日程

2025年 2月6日（木） 10:50 開 会
17:20 初日終了

2月7日（金） 9:00 2日目開始
17:25 閉 会

※ 閉会后グループダイアログ実施（約60分）
※ 場所: グランドハイアット福岡（WEB配信有り）

新しい「経営のカタチ」の実践
「分離思考の経営論」
から
「統合思考による経営論」へ

※別途お申し込みが必要です。詳細・申込みは後日メールにてお送りさせていただきます。

第8講

2025年3月3日（月）

補講+質問会Ⅲ

※講義の内容は現時点での予定です。その時の①世界情勢、金融情勢等々の動きによって②受講生からの感想文や質問内容によって、タイムリーで適切なテーマに変更することがございます。ご了承ください
※本編の時間につきましては、当初の予定から変更する場合がございます

■感想文をご提出ください

その感想(気づき)が、あなたと同じ価値観を持った人との出逢いをつくり、
そのあなたの感想(気づき)があなたの最大の価値となります。
どんな間違いに気づき(これまで何を正しいと思っていたのか?)、
その自己との対話(言及)が
現実に必要な出逢いを創り出し、現実(環境)を変革します。

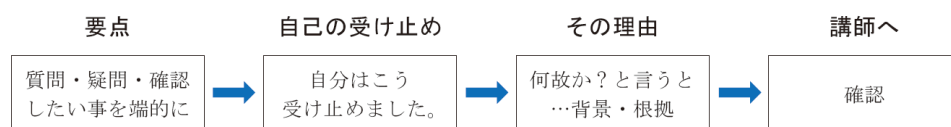
■質問について

学んだ思想をあなたの思考原理として実践するために
思想を通して言語概念化した問題意識を質問としてご提出ください。
頂いたご質問は、各講義又は質問会にてお答え致します。

リアルなビジネスの現場に於いて発生している不安や問題を
「質問」するために言語概念化し、
講師との対話を通して、自己と向き合うことで、
思想への確信が深まり、
実践するための思考原理の確立に近づきます。

是非、直接講師に質問できるこの機会を
学んだ思想を実践する為の確信を深める場として
ご活用ください。

『思想・価値観学習』に於ける質問の仕方



下記要件で、A4 2枚以内におまとめの上、Word(office)にてご提出をお願い致します。

余白：標準 フォント：MS明朝 フォントサイズ：10.5

※感想文と質問の提出期限と提出方法につきましては、最終ページにてご確認ください。

※受講生からお寄せいただいた質問等が多数がある場合は、全てにお答え出来ませんことを、
予め、ご了承くださいませ。

■本日のタイムスケジュール

13:00～13:30	受付・WEB 入室可能時間
13:30～14:30	前講（60 分）
14:30～14:50	休憩（20 分）
14:50～15:50	後講（60 分）
※以下参加希望者のみ（当日参加可能）	
16:10～17:40	GD(グループダイアログ)※ グループに分かれて対話を行います。

※申込されていない方は、当日受付に申し付けください。

受付にて、チーム分け及び会場をお伝え致します。

■感想文、質問については

後日メールにてお送りする様式に記載し下記 URL からアップロードし、
ご提出をお願い致します。

期限：1 月 6 日（月）10 時まで

<https://lstep.app/form/27848/z2by9C/455579>

高次元経営 第 5 期

🔍 検索

詳細はアーカイブ配信メールにてお知らせします。

お問合せ：一般社団法人 日本的経営研究会 事務局

Mail : info@nipponteki.com

URL : <https://nipponteki.com/>